

都市広場の類型化手法に関する研究 －東欧とトルコの都市広場の比較からの考察－

芦 川 智

The Study of the Method about Typology of City Square -The Consideration from Relation between Eastern Europe and Turkey- Satoru ASHIKAWA

This report is the proposal of the method about typology of city square. This study is depended upon reserchs of city square in oversea area which was planed five times from 1990. The main part of report is derived from the research in Eastern Europe and Turkey. And this study is depended on the morphorogical method and the application method is multidemensional representation in Hayashi's third method of quantification. At the final part of report I propose the typology map of city square.

Keywords : city-square, graphic-method, morphorogy method, typology, city-plan

はじめに 研究の目的

都市の広場を対象として研究を始めて10年を越えるが、その前半は形態学的研究の対象として扱ったのに対して、後半は実態調査を基に、多様な相を観察し、その結果を基にして類型化を試みる方向へと変化していった。前半のアプローチは、図形的に表現されたものを幾何学的に解析してゆくことが主要な課題であったが、後半の課題は、大きくその内容を異にしている。つまり、都市広場を観察し、それをどのように捉えるかが重要となる。国の違い、民族の違い、地域性と宗教の相違などを基に多様な相を示していることは当然のことであるが、その上で、ある共通性や、地域性を作り上げている原因となるものは何であるかを探ってゆくことが、全体像へ近づいてゆく近道であろうと考えたからである。そして、広場という概念は、世界共通

であり、世界に通用する概念としての広場とは何であるかを求めてゆくことが最終的な方向であろうと道筋を決めていった。

当研究の目的は、単に都市広場の多様な姿を類型化する事ではなく、類型化する主要な概念となるものが、都市広場を規定する重要な概念となるとの展望を基に、広場の概念とは何であるかを定義づけてゆくことが最終的な目標であると設定している。

第1章 研究の経緯とその概要

この研究の現段階での課題は、できる限り多くの地域を観察し、都市広場の多様な相を把握してゆくことであり、その意味で現地調査を数多くこなしてゆくことである。現段階までに行われた調査の状況をまず示し、その中での課題を整理してゆくこととする。現在までに行われ

た調査は6回である。その概要を示すと以下のようになる。

(1) 海外都市広場調査の開始とその概要

調査の開始は、1990年である。ちょうど、東ヨーロッパの社会主義体制が崩壊した1989年の翌年に当たり、東欧の地域の調査が課題視され、海外都市広場調査の開始は、この地域から始められた。以降、1994年までにあわせて6回の調査が行われた。その第1回から第6回までの概要を以下に示す。

1-1 第1回1990年東欧都市広場調査

①調査期間及び調査場所：1990年9月3日から9月28日

東ヨーロッパ5カ国（東独、ポーランド、チェコスロバキア、ハンガリー、ユーゴスラビア）及びイタリア、フランス（国名は調査時点としている）

②調査メンバー：昭和女子大学大学院生と生活美学科4年卒論生

調査研究責任者：芦川智（生活機構研究科教授）

調査研究スタッフ：武居摂子（大学院家政学研究科2年生活造形学専攻）小田嶋恭子（家政学部生活美学科4年）菅野由美子（家政学部生活美学科4年）鶴田佳子（家政学部生活美学科4年）横山晴子（家政学部生活美学科4年）蒲沢由香（家政学部生活美学科4年）小池博美（家政学部生活美学科4年）

③調査行程：

9月3日（月）TOKYO発12:55(SU578便)
MOSCOW着18:20発19:40 FRANKFURT A.M.
着20:00 FRANKFURT A.M.泊

9月4日（火）FRANKFURT A.M.発15:00→
(FRANKFURT A.M.)→KASSEL→GOTTINGEN
→(BRAUNSCHWEIG)（泊） 行程 360 Km

9月5日（水）BRAUNSCHWEIG発早朝→国境、東ドイツ→BERLIN（西ベルリンで泊）東ベルリンを見学 行程 276 Km

9月6日（木）昼食後BERLIN発→
FRANKFURT A.D.O.→国境、ポーランド→
(SWIEBODZIN)→(SULECHOW)→
(RAKONIEWICE)→(POZNAN)（泊）行程
391Km

9月7日（金）POZNAN→(SMIGIEL)→
(LESZNO写真のみ)→GLOGOW→
(SRODASLASKA)→(WROCLAW)→(OPOLE)→
CZESTOCHOWA（泊）行程 454Km

9月8日（土）CZESTOCHOWA;JASNA GORA
発6:00→PIOTRKOW TRYB.→(WARSZAWA)→
RADOM→KIELCE（泊）行程 503Km

9月9日（日）KIELCE修道院→(KRAKOW)→
(TARNOW)→(NOWY SACZ)→(STARY SACZ
修道院)→(KROSCZENKO)→木造の教会→
NOWY TARG→ZAKOPANE(泊) 行程 395Km

9月10日（月）ZAKOPANE→国境、チェコスロバキア→JAVORINA木造の教会→ZDIAR木造の民家→KEZMAROK→(LEVOCA)→
ZVOLEN→(KREMNICA)→HANDLOVA→
PRIEVIDZA教会→BANOVCE→
UH.HRADISTE(泊) 行程538Km

9月11日（火）UH.HRADISTE→(KROMERIZ)
→(OLOMOUC)→(PRIKAZY)→(MORAVSKA
TREBOVA)→(LITOMYSL)→(HRADEC-
KRALOVE)→(PARDUBICE)→KUTNA-HORA
→(KOLINサーカス)→PRAHA（泊）行程
418Km

9月12日（水）(PRAHA) 行程 38Km

9月13日（木）PRAHA→(PISEK)→VODNANY
→(CESKE BUDEJOVICE)→(JINDRICHUV-
HRADEC)→(PELHRIMOV)→(JIHLAVA)→
BRNO→BRATISLAVA(泊) 行程 554Km

9月14日（金）BRATISLAVA→国境、ハンガリー→(GYOR)→BUDAPEST（泊）行程
251Km

9月15日（土）BUDAPEST→

(SZENTENDRE)→(KECSKEMET)→(PECS)(泊)
行程 335Km

9月16日(日) PECS→国境→(OSIJEK)→
(DAKOVO通りの広場)→GRACANICA→
ZENICA→(SARAJEVO)(泊) 行程 492Km

9月17日(月) SARAJEVO→MOSTAR→
SLANO→(DUBROVNIK)→SLANO(泊) 行程
341Km

9月18日(火) SLANO→(KORCULA)→
SLANO(泊) 行程164Km

9月19日(水) SLANO→(SPLIT)→(TROGIR)
→PRIMOSTEN→(SIBENIK)→ZADAR→(NIN)
(泊) 行程 375Km

9月20日(木) NIN→ZADAR→RIJEKA→
(KOPER)→国境, イタリア→(TRIESTE)(泊)
行程 372Km

9月21日(金) TRIESTE→(VENEZIA)→
(VICENZA)→(VERONA)(泊)
行程 312Km

9月22日(土) VERONA→(MILANO)→
(PAVIA)→NICE(泊) 行程 514Km

9月23日(日) NICE→PARIS(泊)
行程 937Km

9月24日(月) PARIS 8Km

9月25日(火) PARIS

9月26日(水) PARIS

9月27日(木) PARIS発11:50 SU575

MOSCOW着17:35発19:05

9月28日(金) TOKYO着 9:40

注: ()内は調査を行った都市名を示す

④調査結果: 28日間に及ぶ調査の行程で起点とするフランクフルトアムメインから、終点であるパリまで、同一の車で走行し、その走破した距離は約8000キロメートルに及ぶものとなった。通過した国の数は、8カ国。調査対象とした都市の数は、55都市となり、その中から、第1回の調査リストとして挙げることが出来た都

市広場は、45地区に及ぶものであった。

1-2 第2回1991年海外都市広場調査

①調査期間及び調査場所: 1991年7月29日から8月29日 オーストリア, ハンガリー, ルーマニア, ブルガリア, トルコ, ギリシャ, イタリアの7カ国

②調査メンバー: 昭和女子大学大学院生と生活美学科4年卒論研究希望者及び同科3年から、以下の5人の調査研究組織を作った。

調査研究責任者: 芦川智(生活機構研究科教授)
調査研究責任補助者: 鶴田佳子(生活美学科技術助手)

調査研究スタッフ: 金子友美(大学院家政学研究科1年生活造形学専攻) 塩田泉(家政学部生活美学科4年) 高橋峰子(家政学部生活美学科3年)

③調査日程: 7月29日(月) 成田12:55→
MOSCOW17:20(泊) 30日(火) MOSCOW9:35
→WIEN11:25 午後観光(泊) 31日(水) WIEN
終日視察

8月1日(木)(車借りる) WIEN→→(国境・ハンガリー)→→SOPRON→→KOSZEG→
→SZOMBATHELY→VESZPREM(泊) 行程
279km

2日(金) VESZPREM→SZEKESFEHERVAR
→→BUDAPEST(泊) 行程147km

3日(土) BUDAPEST→→GYONGYOS→→
EGER→→MISKOLC→→DEBRECEN(泊)
行程336km

4日(日) DEBRECEN→→HORTBAGY→
GYULA→SZEGED(泊) 行程333km

5日(月) SZEGED→(国境・ルーマニア)
→ARAD(泊) 行程110km

6日(火) ARAD→→ORADEA→→CLUJ
NAPOCA→TIRGU MURES(泊)
行程394km

7日(水) TIRGU MURES→SIGHISOARA→
BRASOV→BUCURESTI(泊)

行程354km

8日(木) 終日 BUCURESTI(停滞) 行程
22km

9日(金) BUCURESTI→→(国境・ブルガ
リア)→→RUSE(泊) 行程 84km

10日(土) RUSE→→VELIKO TARNOVO→
→KAZANLAK→→SOFIA(泊)
行程467km

11日(日) SOFIA→RILA→SOFIA(停滞)
行程244km

12日(月) SOFIA→PLOVDIV(泊)
行程154km

13日(火) PLOVDIV→→(国境・トルコ)
→EDIRNE(泊) 行程238km

14日(水) EDIRNE→→ISTANBUL(泊)
行程249km

15日(木) 終日 ISTANBUL(停滞) 行程
34km

16日(金) ISTANBUL→→(国境・ギリシャ)
→→ALEXANDRUPOLIS→→KAVALA(泊)
行程485km

17日(土) KAVALA→→THESSALONIKI→
→EDESSA→→KASTORIA(泊) 行程397km

18日(日) KASTORIA→JOANNINA(泊) 行
程260km

19日(月) JOANNINA→METSOVON→
METEORA→→ATHINE(泊) 行程488km

20日(火) 終日 ATHINE(停滞)
行程 0km

21日(水) ATHINA→KORINTHOS→PATRE
乗船 行程208km

22日(木) 船上(国境・イタリア)→
BRINDISI(泊) 行程 0km

23日(金) BRINDISI→→TARANTO→→
ALBEROBELLO→→ALTAMURA→→

MATERA→→POTENZA(泊) 行程346km

24日(土) POTENZA→→MELFI→

VENOSA→BENEVENTO→AVELLINO→
SALERNO(泊) 行程313km

25日(日) SALERNO→POMPEI→

ROMA(泊) 行程288km

26日(月) 終日 ROMA

27日(火) 終日 ROMA

28日(水) ROMA11:55→MOSCOW17:35
19:05→

29日(木) →成田9:40 総行程6,230km

④調査結果：全行程で6,230 km走行し、7カ国、
36都市、74広場の調査を行った。

1-3 第3回1992年海外都市広場調査

①調査期間及び調査場所：1992年7月30日から

8月25日 トルコ、ギリシャの2カ国

②調査メンバー：昭和女子大学生活美学科4年
卒論研究希望者及び同科3年から、以下の6人の
調査研究組織を作った。

調査研究責任者：芦川智(生活機構研究科教授)

調査研究責任補助者：鶴田佳子(生活美学科技
術助手)

調査研究スタッフ：星恵理子(家政学部生活美
学科4年) 太田黒章江(家政学部生活美学科3年)
小柴美海(家政学部生活美学科3年) 須山愛
(家政学部生活美学科3年)

③調査日程：

7月30日(木) TOKYO 12:00→SU584→
MOSCOW 17:20

7月31日(金) MOSCOW 10:20→SU503→
ISTANBUL12:15

8月1日(土) ISTANBUL

8月2日(日) ISTANBUL→IZNIK→IZMIT→
BURSA泊 328km

8月3日(月) BURSA→BALIKESIR→
BERGANA泊 322km

8月4日（火）BERGAMA→AKHISAR→
SIMAV→KUTAHYA泊 395km

8月5日（水）KUTAHYA→ESKISEHIR→
GOYNUK→BOLU泊 377km

8月6日（木）BOLU→SAFRANBOLU→
ARAC→KASTAMONU泊 265km

8月7日（金）KASTAMONU→AMASYA泊
465km

8月8日（土）AMASYA→ALACAHÖYÜK→
ANKARA泊 175km

8月9日（日）ANKARA 停滞 12km

8月10日（月）ANKARA→KAYSERİ泊
349km

8月11日（火）KAYSERİ→URGUP→ZELVE
→MONKS VALLEY→GÖREME→
ORTAHISAR→URGUP泊 158km

8月12日（水）URGUP→UCHISAR→
KAYMAKLI→NEVSEHIR→AKSARAY→
KONYA泊 305km

8月13日（木）KONYA→ORTAKÖY→
AFYON泊 281km

8月14日（金）AFYON→PAMUKKALE泊
237km

8月15日（土）PAMUKKALE→DENİZLİ
→SELÇUK泊 152km

8月16日（日）SELÇUK→MARMARIS
（車返却）泊 342km

8月17日（月）MARMARIS→（船）→
RODOS

8月18日（火）RODOS→（飛行機）
OA709 19:35→20:30 ATHINA泊

8月19日（水）ATHINA→（飛行機）OA652
7:30→8:20 MİKONOS泊

8月20日（木）MİKONOS→（飛行機）
OA526 8:40→9:20 THIRA泊

8月21日（金）THIRA(SANTORINI)停滞

8月22日（土）THIRA→（飛行機）OA557

22:40→23:35 ATHINA泊

8月23日（日）ATHINA停滞

8月24日（月）ATHINA12:55→SU296→
MOSCOW→19:20→SU575

8月25日（火）→TOKYO 9:40

④調査結果：調査期間は27日間（トルコ地域19日間、ギリシャ地域8日間）トルコ地域は、車による調査で走行距離は4,163 kmであり、ギリシャの島空間は、飛行機によった。調査した都市の数は21都市、広場数は 28広場となっている。この回は、それに住居の調査を加えている。調査住居数は、トルコで 8戸、ギリシャで 3戸となっている。

1-4 第4回1993年海外都市広場調査

①調査対象国 フィンランド、スウェーデン、ドイツ、スイス、フランス、ベルギー、オランダ計7カ国

②実施期間 1993年9月6日（月）～9月24日（金）

③調査メンバー：

調査研究責任者：芦川智（生活機構研究科教授）
調査研究責任補助者：金子友美（生活美学科研究助手）

調査研究スタッフ：小柴美海（家政学部生活美学科4年）甚内 有紀（家政学部生活美学科4年）

④調査日程：9月6日（月）成田 11:50 →
AMSTERDAM 16:45

9月7日（火）AMSTERDAM 18:45 →
HELSINKI 22:10（泊）

9月8日（水）HELSINKI滞在

9月9日（木）HELSINKI 18:00（シリアライン乗船）

9月10日（金）→STOCKHOLM 9:00

9月11日（土）STOCKHOLM 7:30 →
DUSSELDORF 9:30 → BELGIN 11:30

9月12日（日）BELGIN 17:50 → ZURICH

19:20

9月13日(月) ZURICH 9:00 → BAZEL 17:00
9月14日(火) BAZEL 9:00 → RONCHAMP
10:30 → LYON 18:00
9月15日(水) LYON 14:50 → PARIS 17:04
9月16日(木) PARIS 滞在
9月17日(金) PARIS 滞在
9月18日(土) PARIS 滞在
9月19日(日) PARIS 8:30 → AMIENS 11:15
→ ARRAS 15:45 → LILLE 17:30
9月20日(月) LILLE 9:00 → BRUGGE 10:30
→ BRUXELLES 17:30
9月21日(火) BRUXELLES 滞在
9月22日(水) BRUXELLES 8:30 →
ANTWERPEN 11:30 → ROTTERDAM 14:45 →
DELFT 16:00 → UTREHT 18:00 →
AMSTERDAM 19:00
9月23日(木) AMSTERDAM 14:50 →
9月24日(金) → 成田 9:10
⑤調査結果：調査期間は18日間。調査した都市
の数は15都市、広場数は38広場であった。

1-5 第5回1994年海外都市広場調査

- ①調査対象国：中東地域：イエメン
②実施期間：1994年5月3日(火)～5月13日(金)
③調査メンバー：5回は、昭和女子大学だけでなく、外部メンバーを加えて7名のスタッフを組んだ。
調査研究責任者：芦川智(生活機構研究科教授)
調査研究責任補助者：金尾朗(生活美学科講師)
調査研究スタッフ：金子友美(生活美学科助手)
入之内瑛(都市梱包工房主宰) 小嶋一浩(東京理科大学講師) 城土崎和佐(城土崎アトリエ主宰) 田中優香(生活美学科4年)
④調査日程：

5月3日(火) TOKYO 12:00 SU576 →
MOSCOW 17:20 1:05 SU447 →

5月4日(水) ADEN 10:20 着 17:00 発 →
SANA'A 18:00 着

5月5日(木) SANA'A 5:00 DY856 →
SEIYUN 6:50

5月6日(金) SEIYUN → SHIBAM →
SEIYUN

5月7日(土) SEIYUN 9:30 IY321 →
SANA'A 11:20 着

5月8日(日) SANA'A → SHIBAM → THULA →
KAWKABAN → AL MAHWIT 行程143 Km

5月9日(月) AL MAHWIT → MANAKWIT →
HAJJARAH → SANA'A 行程132 Km

5月10日(火) SANA'A → AMRAN → KULAN
→ HAJJAH 行程115 Km

5月11日(水) HAJJAH → SANA'A 17:00 IY408
→ ADEN 17:45 着 19:00 発 SU448 → 行程115 Km

5月12日(木) → MOSCOW 4:45 着
MOSCOW 発 20:00 →

5月13日(金) → TOKYO 10:40 着

の予定であったが、5月5日早朝に内戦が勃発し、
5月5日から11日の予定は実施できず、SANA'A
にとどまり、SANA'A以外の都市を見ることは
できなかった。

⑤結果

内戦勃発により当初の目的は達することがで
きず、見ることができた都市は、わずかにサヌア
と退避していったフランス領ソマリアの都市ジ
ブチのみであった。

1-6 第6回1994年海外都市広場調査

- ①調査期間及び調査場所：1994年7月25日から
8月18日 オーストリア、イタリアの2カ国
②調査メンバー：
調査研究責任者：芦川智(生活機構研究科教
授)
調査研究スタッフ：金尾朗(生活美学科講師)
金子友美(生活美学科助手) 永田香奈子(生活

美学科4年)

③調査行程：

7月25日(月) TOKYO→(SU582)→MOSCOW
(泊)

7月26日(火) MOSCOW→(SU261)→VIENA
WIEN市内見学(泊)

7月27日(水) WIEN停滞

7月28日(木) WIEN→MELK→MONDSEE→
SALZBURG泊 行程 319Km

7月29日(金) SALZBURG→INNSBRUCK泊
行程 202Km

7月30日(土) INNSBRUCK→(BRENNER峠)
→BRESSANONE→BASSANO・DEL・GRAPPA
→CITTADELLA→→CASTELFRANCO
VENETO→TREVISO泊 行程 341Km

7月31日(日) TREVISO→VENEZIA泊
行程 130Km

8月1日(月) VENEZIA→CHIOGGIA→
PADOVA→VICENZA→VERONA泊
行程 170Km

8月2日(火) VERONA→MANTOVA→
CREMONA→PIACENZA→LODI→CREMA→
MONZA泊 行程 301Km

8月3日(水) MONZA→MILANO→
VIGEVANO泊 行程 67Km

8月4日(木) VIGEVANO→VERCELLI→
IVREA→BIELLA→CASALE MONFERRATO→
(BIELLA→)→ALESSANDRIA泊 行程 417Km

8月5日(金) ALESSANDRIA→ASTI→ALBA
→VENTIMIGLIA→IMPERIA泊 行程 286Km

8月6日(土) IMPERIA→ALBENGA→
RIOMAGGIORE→PORTOVENERE泊 行程
330Km

8月7日(日) PORTOVENERE→
PIETRASANTA→PONTREMOLI→PARMA→
CARPI→MODENA→BOLOGNA泊 行程
378Km

8月8日(月) BOLOGNA→FERRARA→
COMACCHIO→RAVENNA→BOLOGNA泊
行程 281Km

8月9日(火) BOLOGNA→FIRENZE→
PISTOIA→LUCCA→PISA→FIRENZE泊 行程
326Km

8月10日(水) FIRENZE停滞

8月11日(木) FIRENZE→S.GIMIGNANO→
VOLTERRA→COLLE DI VAL D'ELSA→SIENA
→→MONTEPULCIANO泊 行程 242Km

8月12日(金) MONTEPULCIANO→
AREZZO→CITTA DI CASTELLO→URBINO→
GUBBIO→PERUGIA泊 行程 303Km

8月13日(土) PERUGIA→ASSISI→
FOLLIGNO→TODI→ORVIETO泊 行程 165Km

8月14日(日) ORVIETO→PITIGLIANO→
VITERBO→CAPRAROLA→CIVITA CASTELLA
-NA→CALCATA→→ROMA泊 行程 308Km

8月15日(月) ROMA滞在

8月16日(火) ROMA滞在

8月17日(水) ROMA→(SU583)→MOSCOW
経由

8月18日(木) →TOKYO

総走行距離は、4,567Kmである。

④調査結果：25日間の行程のうち、ウィーンからローマまでの23日間は同一の車で移動した。調査対象とした都市の数は、70都市である。その中から、今回都市広場調査リストとして挙げる事が出来た数は、122カ所に及ぶ。

図1-1 6回の調査行程図参照

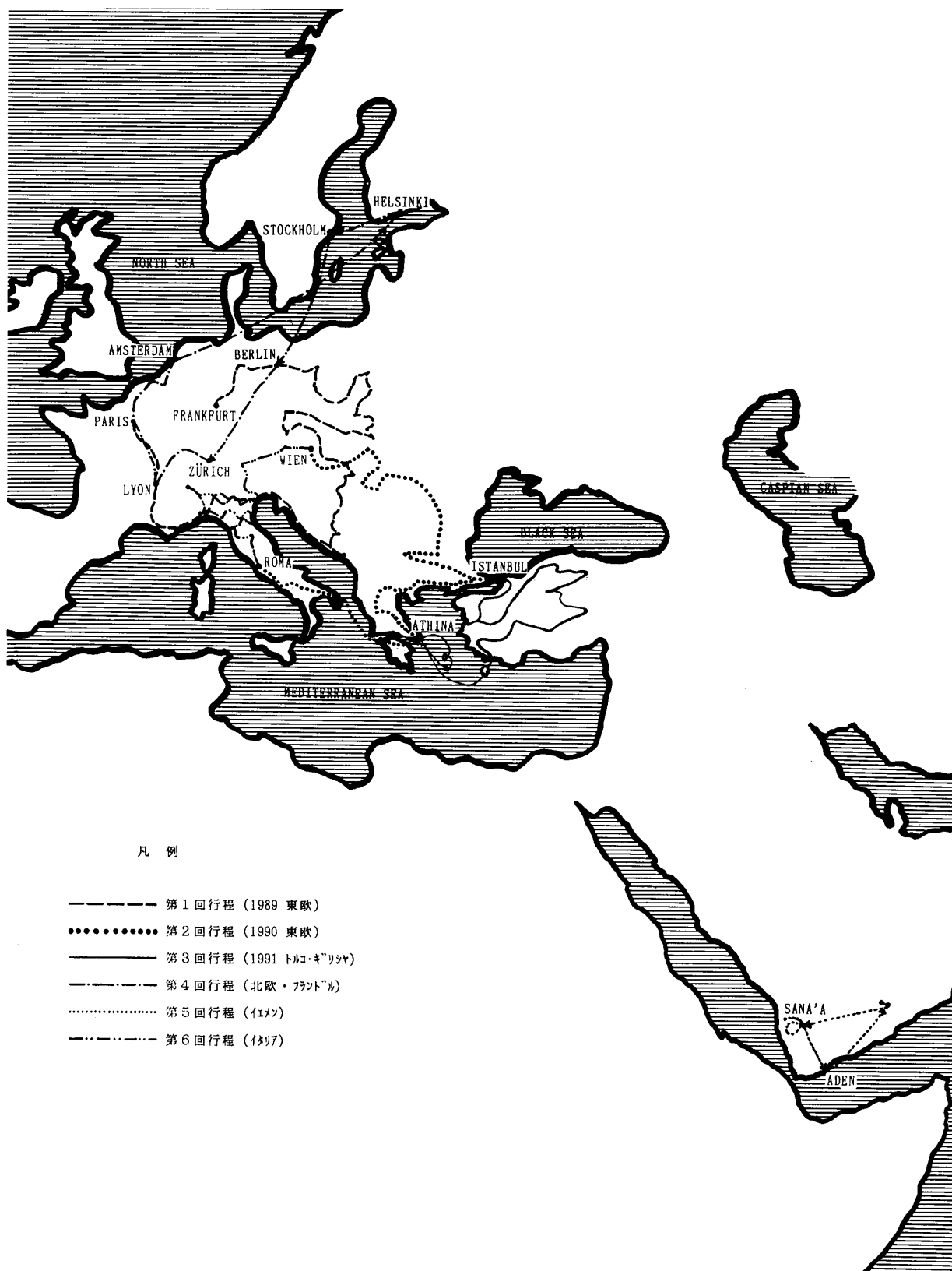


図1-1 6回の調査行程図

(2) 都市広場の形態分析とその目的

2-1 第1回調査：この調査では、晴れとヶの空間としての広場が焦点とされた。そこで、広場の使われ方調査を行い、日常的な部分の広場での現象を追ってみた。また、広場の空間的特徴として、人のための広場と、建物のための広場という概念を提起し、それぞれの概念の広場があることを示していった。それは、ポーランド、チェコスロバキアで見られた矩形広場と建物が内蔵されている広場を基に形態的に検討された結果導入された概念である。つまり、教会等の記念性の高い建造物のためにつくられた広場は、その建物がもし取り払われたら、広場として意味を失ってしまうものであるが、東欧で見られた広場では、中央に建物が内蔵されている場合に、その建物が取り払われたとしても、広場としての装いを持っているものは、むしろ

囲われた空間での人々の生活が主体となっているものと解釈されるであろう事を拠り所としている。(学苑生活美学紀要、平成3年7月、No.621参照)

図1-2 人のための広場と建物のための広場

2-2 第2回調査：この調査では、東欧5カ国の調査を終えて、東欧としての特徴を整理するために都市広場の形態を語る13項目のカテゴリーを提案し、その項目によって、6カ国の特徴を整理する試みを行った。13項目のカテゴリーは、①都市に於ける位置、②広場の複合度、③都市と地形との同調、④広場平面の地形形態的特徴、⑤広場の平面形態、⑥広場の求心性、⑦広場の開放性、⑧広場の装飾性、⑨広場の主たる機能概念、⑩機能分化の状況、⑪軸線、⑫広場への導入、⑬広場で第1の特徴的な造形物のそれぞれである。この13項目にそれぞれ2から6

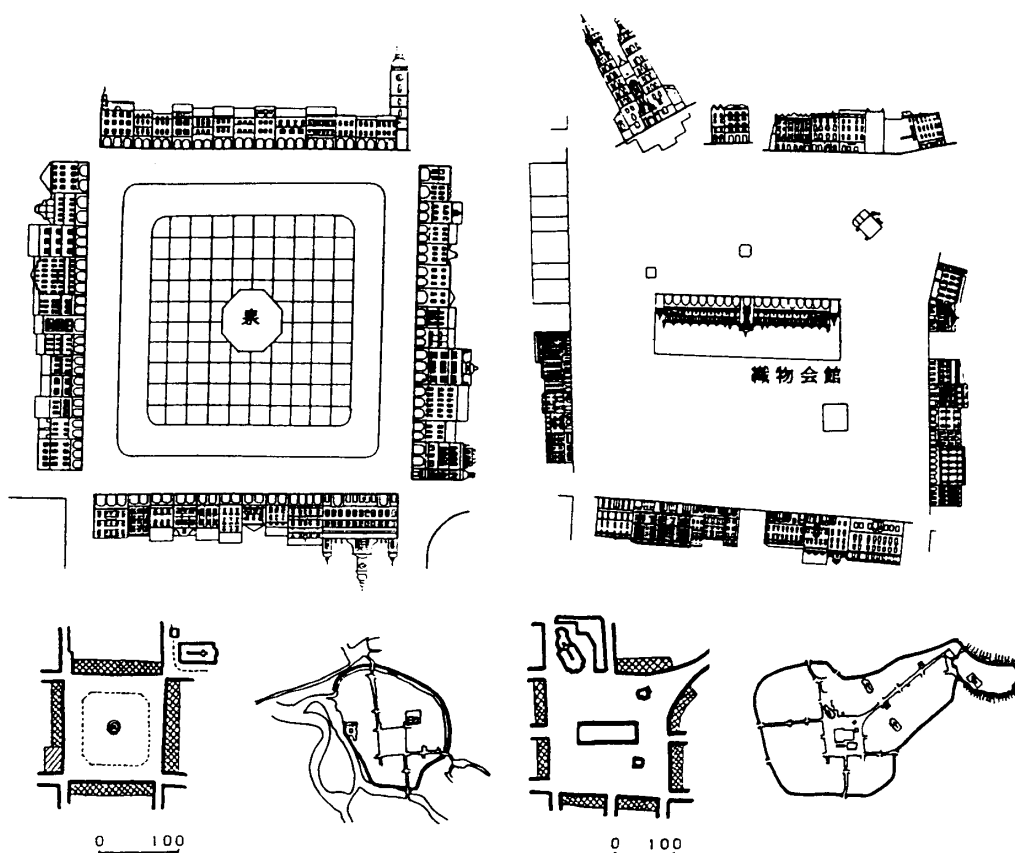


図1-2 人のための広場と建物のための広場

項目の選択肢をもうけて、整理し、東欧の特徴を示していった。(学苑生活美学紀要、平成4年7月、No.633参照)

2-3 第3回調査：この調査では、「ヨーロッパの根っこ」(安田喜憲著「大地母神の時代」)としてのトルコに焦点を当てたが、ヨーロッパの根っこであると同時にイスラムというヨーロッパと相對峙する宗教地域の一つであることが、この調査の特徴となった。つまり、ヨーロッパ的な広場概念と類似しているが、そこに異なった中心概念が存在することが体験的に感じられたことであり、それが、具体的にどのような点で整理できるかを試みた段階であった。そして、イスラム都市の空間の中で特徴的なバザール(スーク)空間の特徴が浮かび上がってきたと同時に、イスラムの一つの広場概念が、バザール空間に具現化されているのではないかという予感を与えられた。また、トルコの場合、キュリエと呼ばれるモスク・学校・商業施設・

病院等を複合させて一つの複合建築群をつくり、それが、都市のセンター的要素となりまた広場的空間をも提供していることを知り、広場を内包した都市のセンター概念という対象に目を向けることとなった。(学苑生活美学紀要平成5年7月No.644参照)

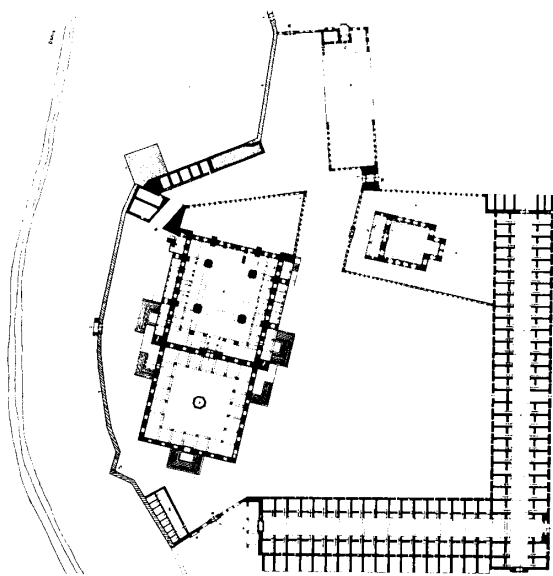
図1-3 トルコのキュリエの例

2-4 第4回調査：この回では、イスラムと対比的に北欧・フランドルを対象として、広場の広場の対象を追っていった。その過程で、広場とは、囲われるものと囲うもの、という考え方が生まれ、その相互関係で広場のタイポロジーという整理ができた。ここで囲う要素と囲われる要素とは以下のものである。

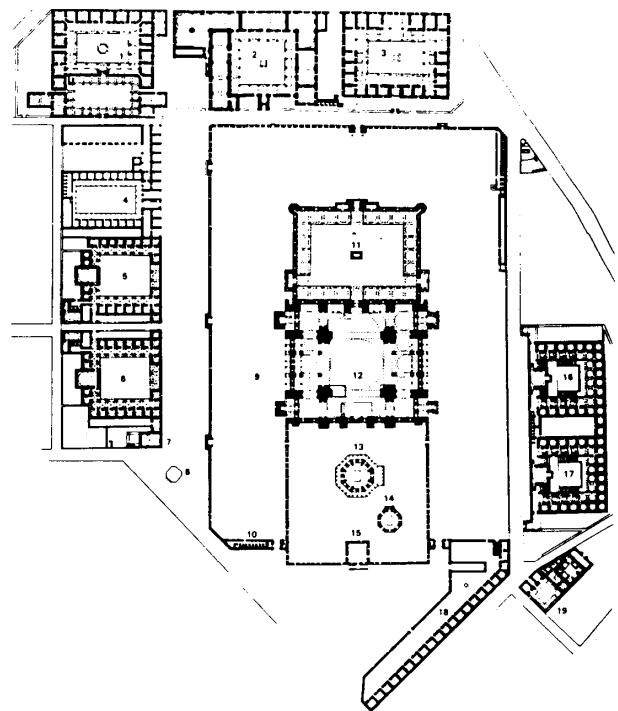
囲う要素：アーケード・ゲブル屋根・装飾的窓・建物の連続壁面等

囲われる要素：塔、教会、彫像、泉、市庁舎、記念碑等

そして、タイポロジーは、以下の3つの要素で



イエニ・ジャミイのキュリエ



スレイマニエ・ジャミイのキュリエ

図1-3 トルコのキュリエの例

組んだ。つまり①広場を囲う要素が計画的であるかないか ②囲われる要素として、構築物（建築、彫像等）が存在するか否か ③ランドマークが広場のどの位置に存在しているか。以上の要素で組んだタイポロジーは14通りのタイプとして示された。（学苑生活美学紀要，平成6年7月，No.655参照）

		ランドマークの求心性			
		ランドマークが中央の構築物等にある場合	ランドマークが広場の囲いに位置する場合	ランドマークが広場の外に存在する場合	ランドマークが存在しない場合
計画的な囲いを構成する場合	広場の中央に構築物等が存在する場合				
	広場の中央に構築物等が存在しない場合				
非計画的な囲いの構成	広場の中央に構築物等が存在する場合				
	広場の中央に構築物等が存在しない場合				

図1-4 広場のタイポロジー

2-5 第5回調査：この調査では、3回目の調査でイスラム空間を観察し、都市のセンター概念という広場を内包して、さらに広い概念として考えてゆくことが有効であることに気づき、再度イスラムの国に挑戦を行った。以上の理由で、古代の都市が現在まで残ると言われるイエメンの調査が企画されたが、入国すると同時に内戦に巻き込まれ、調査は失敗に終わった。しかし、この調査を機会に、中東のイスラム都市のセンター概念についての概観を試みる結果となり、次にイスラム諸国を調査する場合の指針をつくることのできたことは収穫であった。（住宅建築研究所報1994年版研究報告書「中東地域都市・集落のセンター概念に関する研究」参照）

2-6 第6回調査：この回の調査は広場の本場イタリアで行われた。当初、1回でイタリア全土を概観する予定であったが、事前調査によって、1カ月程度ではとても無理であることが判明し、この調査では北部地域のみで調査を組み、その概要をつかんでゆくことを方針とした。現在イタリア調査についてのまとめの段階であり、具体的なまとめの内容をここで示すことはできない。

(3) 研究手法の適用とその過程

都市広場に関するこれまでの研究にあたって適用した分析の手法は、その対象の特性にあわせていくつかの手法が導入されている。その主な手法として以下の6つがある。つまり、形態学的手法、タイポロジー、モデル分析、データベース化、数量化分析手法、類型化手法である。

3-1 形態学的手法：研究全体を通じて形態学的手法が基礎となっているが、それは、形態的要素に示されたものを通して解釈し、形態的なものを通して整理してゆくことである。対象としての都市広場については、実際にどのような使われ方がなされているかという把握を通しての研究方向もあるが、使われ方や、その空間の目的などが、すべて形態的な要素に表現されているとする前提が成立しないとこの手法は成り立たない。これらの前提の下で、当研究は進められているが、そのため、実態調査についても形態的な要素の把握はするが、生活実体などをつぶさに捉えるような調査形態はとらない。その正当性については、論議があるが、当面は、このような手法で行われた研究の成果がいかによく対象を語っているかを見て判断してゆく事としている。

3-2 タイポロジー：タイポロジーとは、対象を整理して幾つかの典型を示していくことである。都市広場の場合、国、地域、民族、宗教、伝統など多様な要素の産物として対象はきわめ

て多様である。それを幾つかの典型としてまとめてゆくためには、大きく切り捨てがなされなければならない。そのための方法として、観察による方法や、数学的なモデル化の方法や、視覚造形的要素の整理など、対象によって応用してゆく必要がある。いずれも、基礎となるものは形態学的要素を取り上げる点は変わらない。

3-3 モデル分析：都市広場の構成されている空間の状況、形態の持つ機能、計画されている平面形、使用されている材料や構法等々、多面的状況の中から、概念をモデル化し、抽象化し、主要な概念への昇華させていったときにはじめて、概念の形成がなされるのであろう。そこで、いかにして、主要な概念を抽出することができるかが重要な課題となる。

3-4 データベース化：現在までに実態調査を行った都市広場は309に及ぶ。今後調査を遂行するたびに広場数は増加してゆく。また、文献的に把握可能な広場を加えると数は規定でなくなる。その意味でも、一つ一つの広場のデータをデータベースとして整理してゆくことが重要となろう。その上で整理し、類型化へ結びつけてゆく必要がある。第1回から、現在までに同一のフォーマットの上で、広場を扱い整理してきたが、今後もこの方針で続けてゆくこととする。書式の構成要素は、コード、国・都市・広場名称、広場形態、都市に於ける広場の位置、規模、広場機能、周辺建築種別、資料・文献、備考（都市概要）である。

3-5 数量化分析手法：数百に及ぶデータに対して多様な側面を持つ対象のため、どうしても多変量解析の力を借りる必要がある。現段階までは、林式数量化手法のⅢ類を適用してきたが、今後必要に応じて他の手法の適用も考えてゆくことが重要であろう。現段階までは、数量データについてはあまり目を向けず、定性的データの処理を中心としてきたので、数量化Ⅲ類

が有効であったが、定量的データの処理も今後の課題である。

3-6 類型化手法：当研究の最終的目標は、都市広場についての類型化である。上述した手法は最終的には類型化に集約されてゆくことが目標である。類型を規定する項目は定性的なカテゴリーを当ててきているが、今後定量的な条件も付加してゆくことを考えてゆく。幾つかの分類軸を構成し、それによる完全分類のできた類型表を作成することが目標である。類型表はひとたび作成されると、多様な都市広場に対する探索のための地図とすることができる。いかなる対象でも位置づけられると同時に、すべての類型に対して実際の典型が示せるような類型表作成を目標としている。

第2章 都市広場の実態把握と類型化の過程

今回の報告は、6回の実態調査を基に、その幾つかの研究過程を通して一つの道筋をつかむことができたことの報告と、その道筋を可能にしてくれた実態調査の過程と、分析に使用した手法と得られた結果の総体を内容としている。そして、2章では、実態調査の過程で重要な意味を担った対象地域とその把握結果の概要を示す。

(1) 東欧の2回の調査

東欧6カ国（ポーランド、チェコスロバキア、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、ユーゴスラビア（調査時点の国名を使用）の調査を終えて東欧という漠然と地域を示す言葉によってくくられる諸国の都市広場を概観して言えることは「あいまいなシステムと重ね合わされた形態」ということであった。これは、「ゆるやかな、ある意味であいまいなシステムに依っており、いくつかの意味をもとに基礎づけられている形態のオーバーレイ（重ね合わせ）によって作り上げられている」と言える事象によって総括をした。これをいくつかの事象に分解して示すと以下の8つの項目となるであろう。つまり、

1. 中央を埋められた広場, 2. 歪んだ形態, 3. 端に置かれた教会, 4. 塀や建物で囲われた教会, 5. 矩形の広場の原型 (ポーランドの広場), 6. 建物のための広場と, 人のための広場, 7. 通り広場と軸線の構成, 8. あいまいな構造の8項目である。それぞれの個別事象については, 図解された資料を参照するとして, このあいま

いではあり, 洗練されてはいないが, 初期的基本型を内蔵していると思われる対象について, その形態的観察要素を取り上げ, 整理することから分析を始めた。その上で, それぞれの要素の相関的構造を明確にしてゆく方法をとった。以下にその道筋を示してゆく。

(図2-1～図2-6参照)

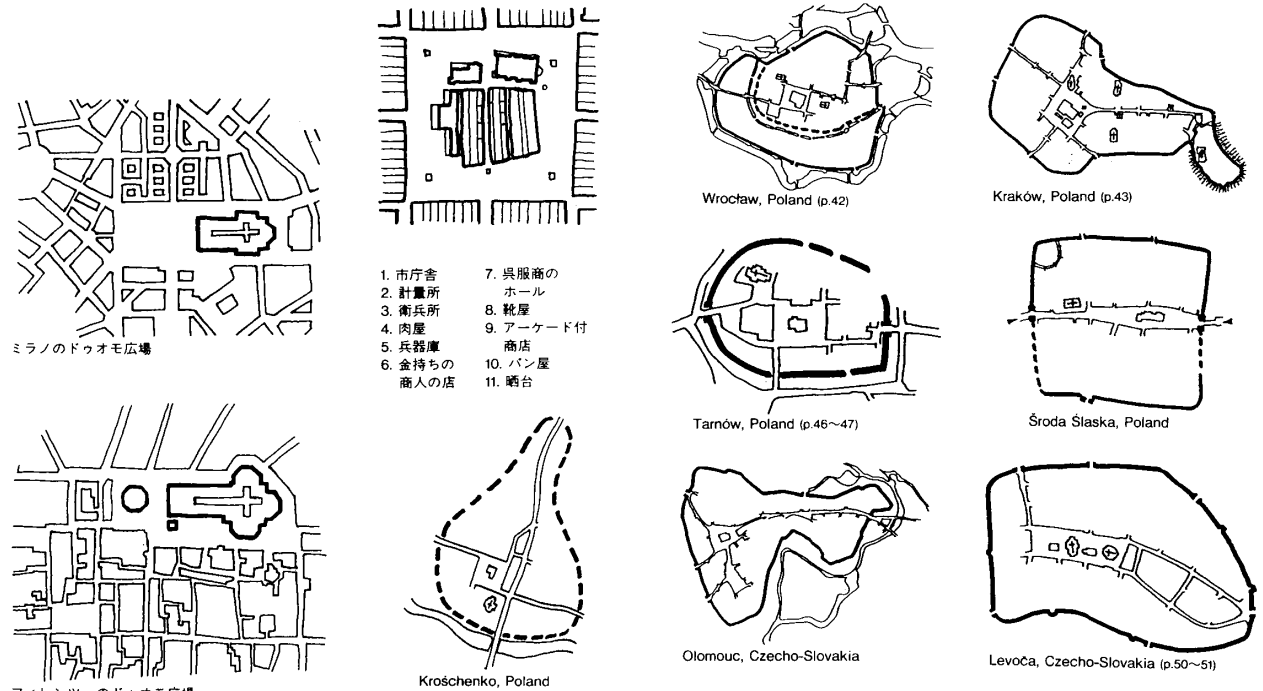


図2-1 中央を建物で埋められた広場

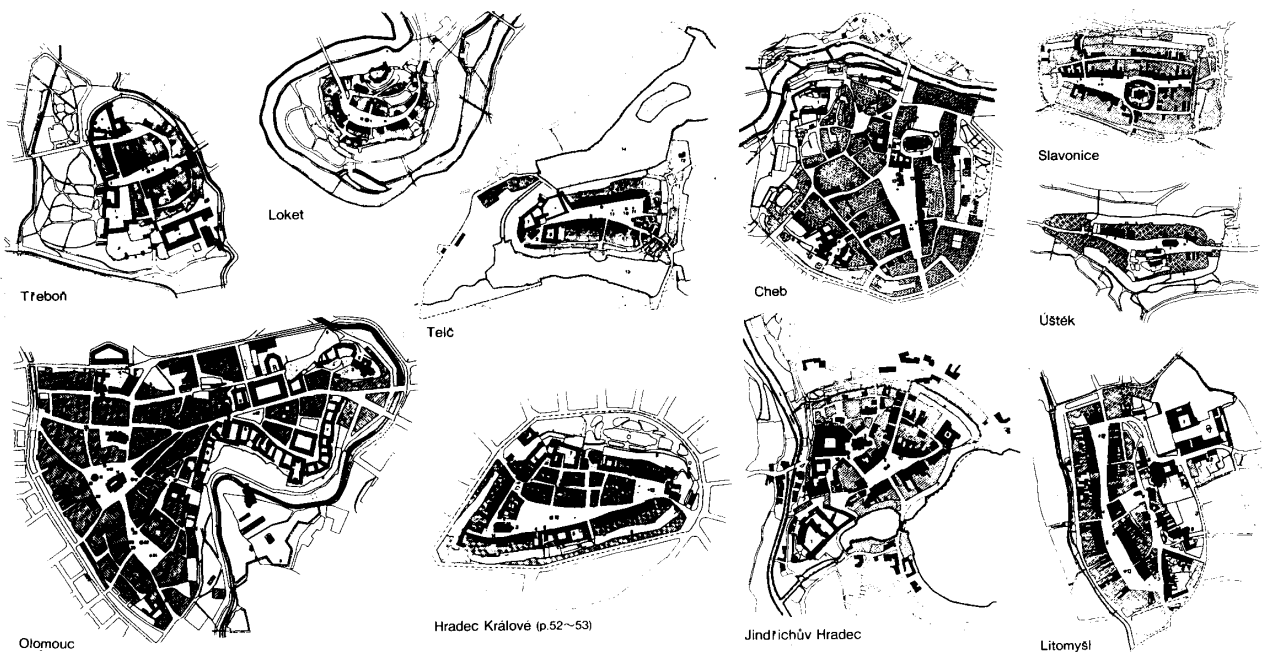


図2-2 歪んだ形態

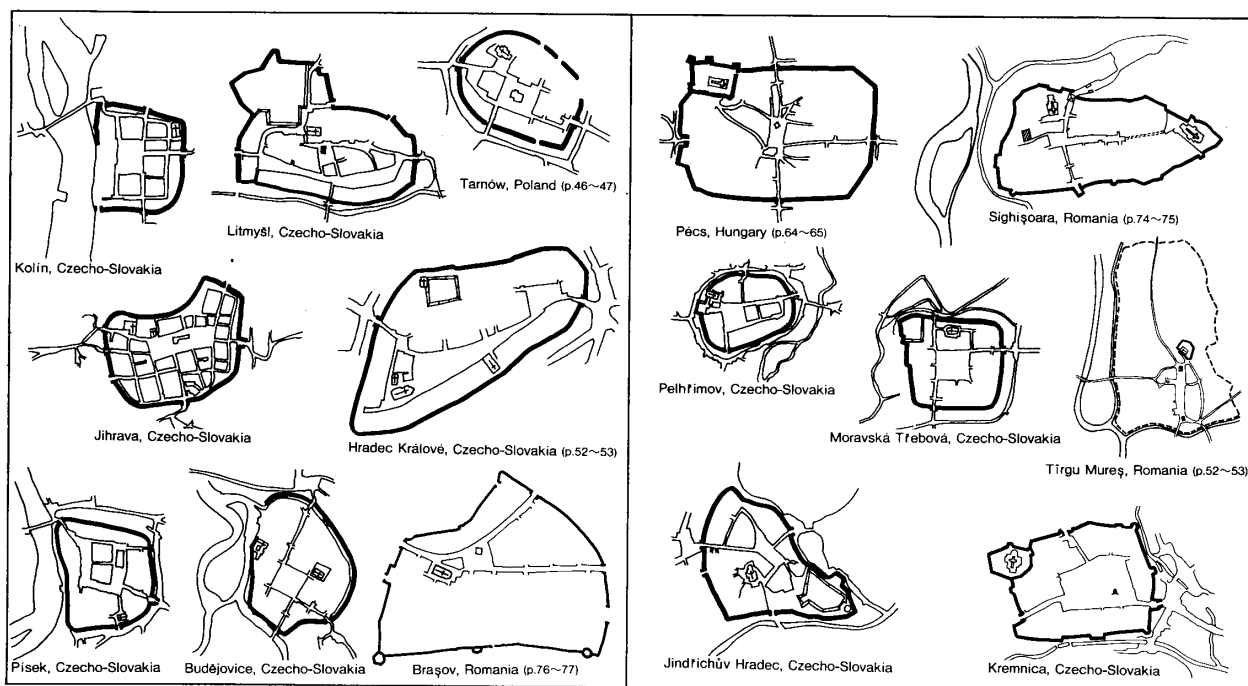


図2-3 端に置かれた教会・堀や建物で囲われた教会

矩形広場の典型

矩形広場の調査事例

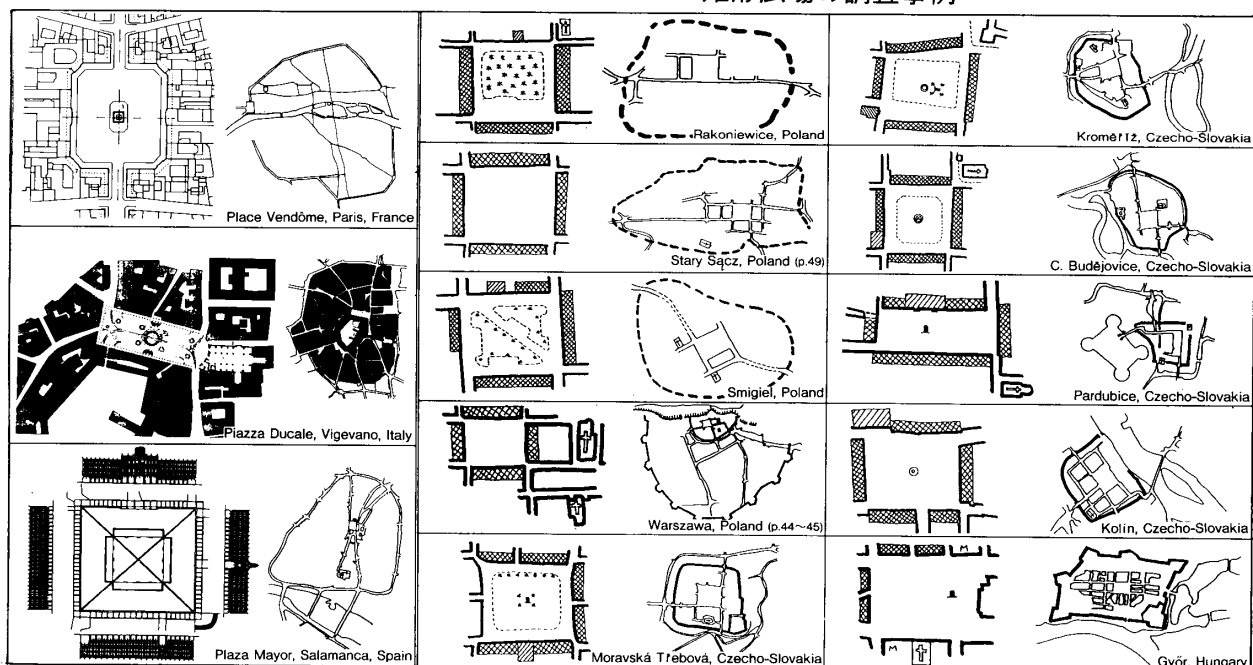


図2-4 矩形広場の原形

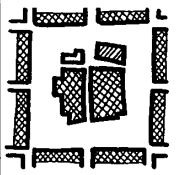

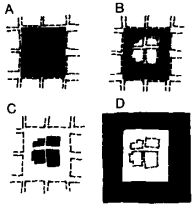
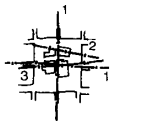
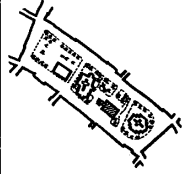

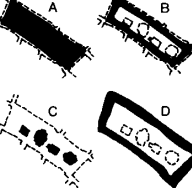

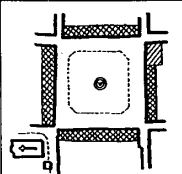

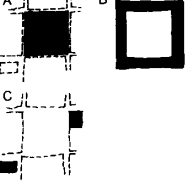
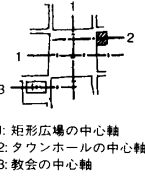
広場モデル図及び都市モデル図	広場鳥瞰写真	広場空間の捉え方	軸線の構成など
<p>Stary Rynek, Poznań, Poland (p.40~41)</p> 		<p>A: 矩形に置かれたゲートル屋根で囲われた空間を一体的に捉える B: 矩形で囲われた空間から中央部建物を除外したリング状の空間として捉える C: 広場中央の建物を広場の主体的建物として把握してゆく方法 D: 広場の外周で囲う建物（商業関係）を主体として捉える方法</p> 	 <p>1: 広場の中心軸 2: タウンホールの中心軸 3: その他の内蔵建物の中心軸</p>
<p>Mierové Náměstí, Levoča, Czecho-Slovakia (p.50~51)</p> 		<p>A: 大きく囲われた長方形の空間として捉える B: 囲われた中の中央部分を除外し、リング状道路空間の形状として捉える C: 内蔵される建物を中心に広場を捉えてゆく D: 広場の外周の建物（商業関係等）を主体として捉える方法</p> 	 <p>1: 矩形広場長軸の中心軸 2: 教会の中心軸 3: タウンホールの中心軸 4: 教会の中心軸</p>
<p>Žitkovo Nám., C. Budějovice, Czecho-Slovakia</p> 		<p>A: 方形に囲われた空間として捉えてゆく B: 外周の建物を一体的に捉えてゆく方法 C: 外周の建物の中で基幹となる建物を主体として捉えてゆく方法</p> 	 <p>1: 矩形広場の中心軸 2: タウンホールの中心軸 3: 教会の中心軸</p>

図2-5 建物のための広場・人のための広場

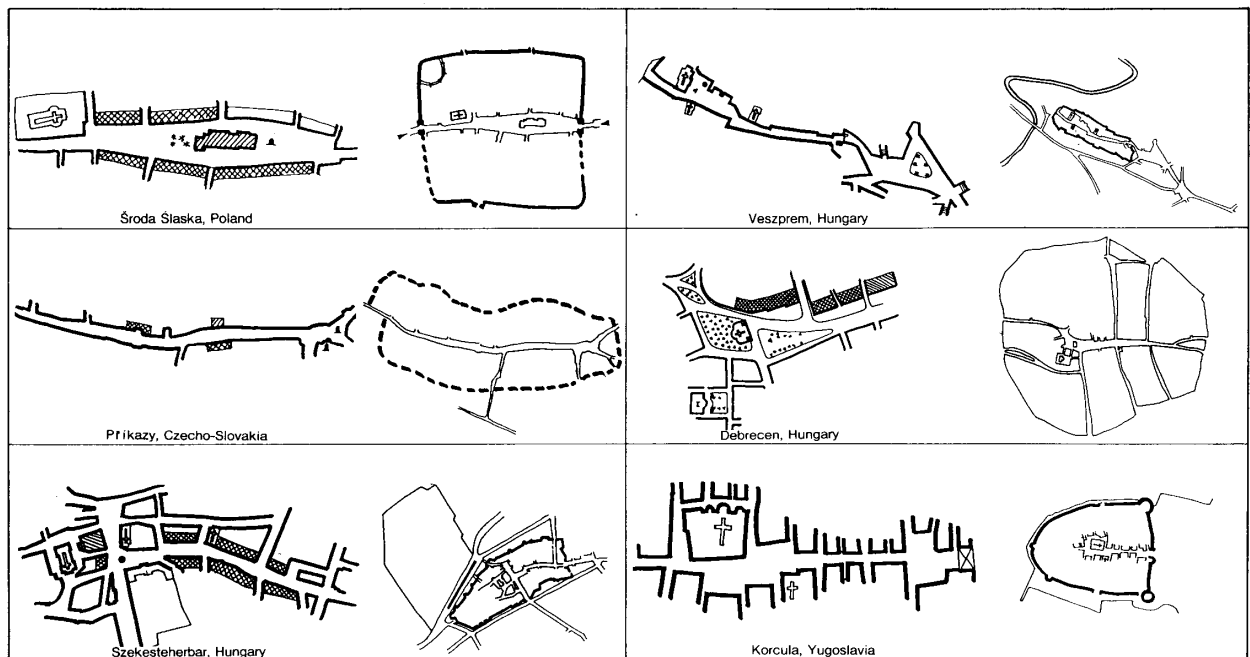


図2-6 通り広場の類型

1-1 基本的整理と集計

1990年、1991年の2年間に東欧地域の主要都市広場の現地調査を行った結果の第1段階のまとめは、形態的観察要素の整理から始めた。

東欧6カ国（ポーランド、チェコスロバキア、ハンガリー、ユーゴスラビア、ルーマニア、ブルガリア）に於て、61都市80広

場の調査を行った。（図2-7参照）この80広場について、規模の差はあるが、形態的な観察要素として、13項目を抽出し、調査担当者の判断によって、評価を行い、第1段階のまとめを行ったリストが、表2-1である。

表2-1 広場形態分析集計表

広場記述のカテゴリ		ポーランド 合計	チェコスロバキア 合計	ハンガリー 合計	ユーゴスラビア 合計	ルーマニア 合計	ブルガリア 合計	東欧総計 事例総計	
カテゴリー	選択肢	13事例	17事例	22事例	10事例	12事例	6事例	80	
1. 都市に於ける位置（都市に於ける中心性）	都市中心に位置する	1	12	15	16	7	11	4	65
	都市の縁辺部に位置する	2	1	1	2	1	1	2	8
	どちらともいえない	3	0	1	4	2	0	0	7
2. 広場の複合度	単一独立的	1	6	8	4	0	2	1	21
	複合的（区分可能な単一広場型）	2	6	3	5	4	5	0	23
	連携的（他広場と連携関係を持って存在）	3	1	6	13	6	5	5	36
3. 都市と地形との同調（広場位置が対応するか否か）	地形と同調した配列	1	3	6	7	4	3	4	27
	都市と広場の地形への同調性は連動しない	2	5	4	8	1	9	0	27
	都市自体が地形的特徴を持たない	3	5	7	7	5	0	2	26
4. 広場平面の地形形態的特徴	平坦	1	10	8	11	7	8	2	46
	傾斜	2	3	8	3	2	1	1	18
	段差（2層）	3	0	0	6	1	3	2	12
	段差（複数層あるいは、階段状）	4	0	0	1	0	0	1	2
	その他（特異地形）	5	0	1	1	0	0	0	2
5. 広場の平面形態	整形広場平面	1	9	8	10	1	9	2	39
	不整形広場平面	2	1	8	10	7	1	3	30
	どちらともいえない	3	3	1	2	2	2	1	11
6. 広場の求心性	単一的単極的求心性	1	1	1	4	1	1	2	10
	単一的多極的求心性（メインとサブ）	2	7	3	3	2	1	0	16
	多極化した求心性	3	2	6	4	4	4	0	20
	軸的求心性	4	0	1	3	1	3	2	10
	弱い求心性（曖昧な求心性）	5	2	5	7	2	1	1	18
	均質的（求心性無し）	6	1	1	1	0	2	1	6
7. 広場の開放性	開放的	1	4	7	13	4	9	4	41
	閉鎖的	2	6	8	6	4	1	0	25
	どちらともいえない	3	3	2	3	2	2	2	14
8. 広場の装飾性	広場が装飾的に飾られている	1	9	11	15	2	8	2	47
	広場は日常的であり、特に飾られていない	2	2	6	5	7	3	3	26
	どちらともいえない	3	2	0	2	1	1	1	7
9. 広場の主たる機能概念	行政中心的広場	1	7	11	4	0	1	0	23
	宗教中心的広場	2	0	0	9	5	2	1	17
	教育・文化中心的広場	3	0	0	1	0	2	1	4
	商業中心的広場（市場広場を含む）	4	4	5	1	2	2	1	15
	生活中心的広場（都市生活を含む）	5	1	1	6	3	3	1	15
	交通中心的広場	6	1	0	1	0	2	2	6
10. 機能分化の状況	前記機能の複合された広場	1	12	17	16	9	10	5	69
	単一機能的広場	2	1	0	6	1	2	1	11
11. 軸線	単一の軸線で構成される	1	8	4	11	1	6	3	33
	複数の軸線で構成される	2	4	8	9	3	4	1	29
	特に軸線は感じられない	3	1	5	2	6	2	2	18
12. 広場への導入	1方向の導入	1	0	0	1	1	0	0	2
	2方向の導入	2	1	5	3	1	1	1	12
	多方向の導入	3	12	12	18	8	11	5	66
13. 広場で第1の特徴的な造形物（広場から見えるものを対象とする）	塔	1	4	8	3	7	0	0	22
	特徴ある建物	2	9	7	9	1	6	3	35
	モニュメント等（彫像、オベリスク、泉等）	3	0	0	2	0	1	0	3
	樹木等の自然物	4	0	0	4	0	1	0	5
	空間自体	5	0	2	3	2	3	1	11
	その他	6	0	0	1	0	1	2	4

形態的な観察要素は以下の13項目である。つまり、1.都市に於ける位置、2.広場の複合度、3.都市と地形の同調、4.広場平面の地形形態的特徴、5.広場の平面形態、6.広場の求心性、7.広場の開放性、8.広場の装飾性、9.広場の主たる機能概念、10.機能分化の状況、11.軸線、12.広場への導入、13.広場で第1の特徴的な造形物である。

上記13項目の集計表を見ることによってそのおおよその傾向を把握できる。たとえば、連携的な広場が多い；平面形態は、整形的なものと不整形的なものとが、同じくらい存在する；開放的な広場が圧倒的に多い；行政中心の広場が、宗教中心の広場を上回っている等である。これは、単純集計結果を項目ごとの重みづけ無しに判断したものであるため、もっとも初期段階の整理といえる。また、以上の13項目によって80都市広場をデータベース化して整理をし、13項目中で、分類項目として有効と思われる3項目を選定し分類を試みた。3項目の分類項目とは、2.広場の複合度（単一独立；複合的（区分可能な単一広場）；連携的（他広場と連携関係を持って存在）と、5.広場の平面形態（整形広場；不整形広場；どちらともいえない）と、6.広場の求心性（単一単極的求心性；単一多極的求心性（メインとサブ）；多極化した求心性；軸的求心性；弱い求心性（曖昧な求心性）；均質的（求心性無し）とする。その結果、事例数の多い（5事例以上）特徴的と思われる対象をあげると以下ようになる

3項目による類型化の結果

- A. 単一独立型整形平面で単一的多極的求心性
タイプ：4,11,19,24,27,53,67の7事例
- B. 連携的不整形平面で多極化した求心性
タイプ：17,20,21,32,38,43,50の7事例
- C. 連携的整形平面で単一的単極的求心性
タイプ：59,62,64,78,79の5事例

D. 連携的整形平面で弱い（曖昧な）求心性
タイプ：29,47,51,60,70の5事例

E. 連携的不整形平面で弱い（曖昧な）求心性
タイプ：28,39,46,57,75の5事例

（事例の番号は、次ページの番号と対応している）

図2-7 東欧80都市広場のモデル図 参照

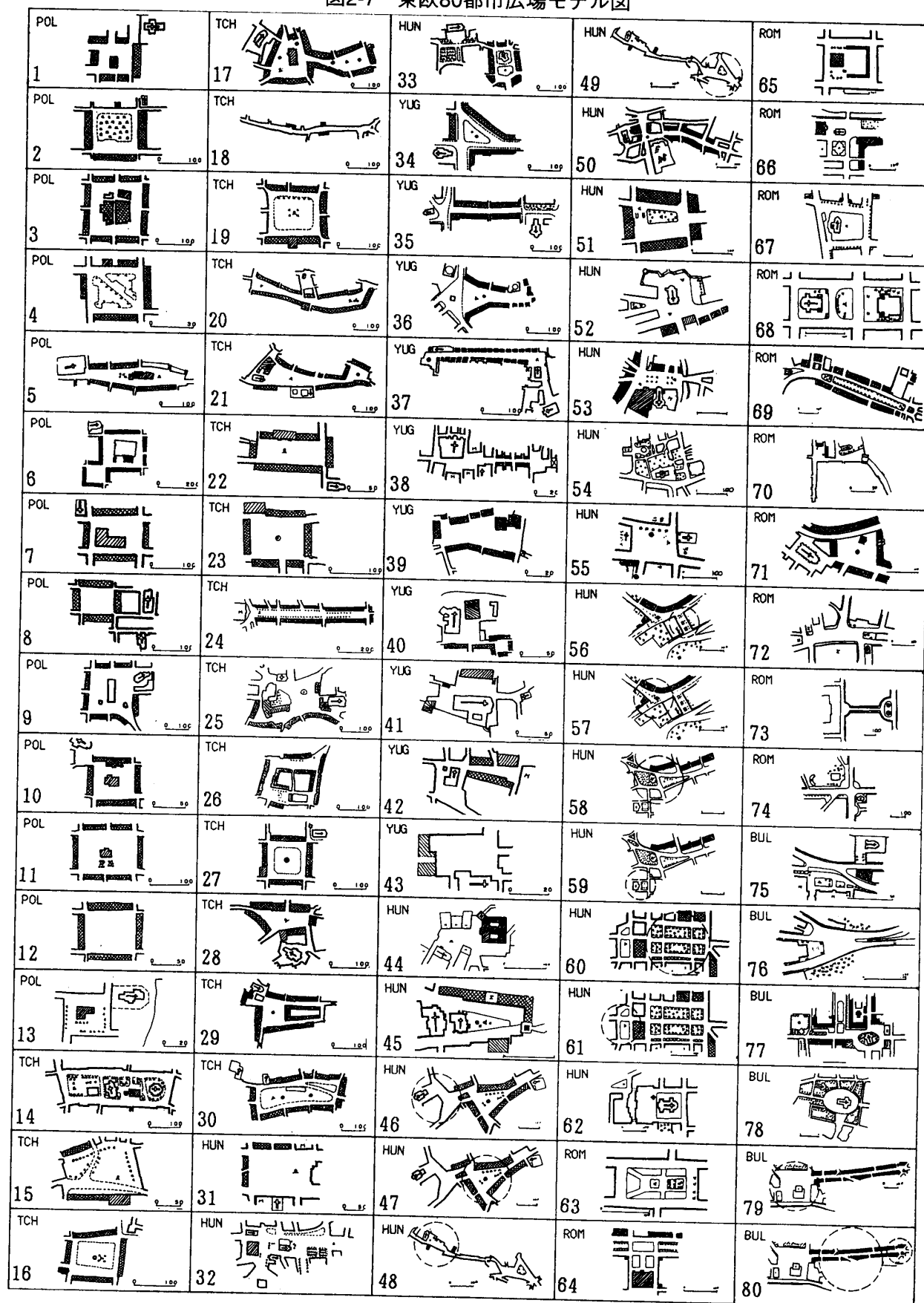
1-2 数量化理論による類型化

東欧地域都市広場調査で採集した80広場事例を対象として類型化を試みる第2段階として、多変量解析林式数量化Ⅲ類を用いて分析を行い、東欧都市広場のいくつかの典型を導入することができた。その結果を以下に示す。

初期段階で設定した13項目のカテゴリーを今回は整理して8項目からスタートした。使用した8項目は、1. 都市に於ける位置、2. 複合度、3. 平面形態、4. 求心性、5. 軸線、6. 広場第一の造形物、7. 市庁舎の位置、8. 教会の位置である。この項目の反応状況と分析結果を勘案し、4段階の分析を経た後、最終段階では6項目70サンプルを選定した。最終段階の固有値とカテゴリースコア表が、表2-1に示されている。項目を減らしたのは、反応に偏りがある、別項目で代表できるなどの理由である。また、サンプルを減らしていったのは、結果が特殊な事例であることや、分布状況の偏りがあるなどの理由である。

最終段階で使用したカテゴリーと選択肢を以下に示す。2. 複合度（①. 単一独立的、②. 複合的、③. 連携的）3. 平面形態（①. 整形、②. 不整形、③. 不明瞭）4. 求心性（①. 単一単極的、②. 単一多極的、③. 複数多極的、④. 軸的求心性、⑤. 曖昧な求心性）5. 軸線（①. 単一的、②. 複数的、③. 不明瞭）7. 市庁舎の位置（①. 広場内中心的、②. 広場内付随的、③. 広場外無関係）8. 教会の位置（①. 広場内中心的、②. 広場内付随的、③. 広場外関連

図2-7 東欧80都市広場モデル図



的、④. 広場外無関係) の6項目である。

本報告での類型化の試みは、クラスター分析の結果をグルーピングすることによって導入されたものである。その結果が次頁のサンプルのグルーピングの図である。上図は、それぞれ1軸-2軸の各グループの分布と1軸-3軸の各グループ分布図であり、その結果として8つのグ

ループとその特徴及び参考広場モデル図が下図に整理されている。(図2-8, 図2-9参照)

1-3 主要概念による類型パターンの設定

東欧地域都市広場の類型化を試みた第3段階は、数量化を行い、主要項目の抽出を導入する事ができた結果を受けて分析した事である。つまり、前節の数量化Ⅲ類の分析結果を受けて、

最終段階固有値表			
	1 軸	2 軸	3 軸
固有値	0.3694	0.2860	0.2791
寄与率	14.8(%)	11.4(%)	11.2(%)
累積率	14.8(%)	26.2(%)	37.4(%)

最終段階カテゴリースコア表			
	1 軸	2 軸	3 軸
2.複合度			
1.単一的	-0.071306	-0.050324	-0.025783
2.複合的	0.043321	0.018298	-0.063564
3.適時的	0.011015	0.016776	0.062083
3.平面形態			
1.整形	-0.059022	-0.016630	-0.002046
2.不整形	0.055960	0.029954	0.045250
3.不明瞭	0.066702	-0.016680	-0.105962
4.求心性			
1.単一的	-0.094467	0.044828	0.040812
2.複合的	-0.015145	-0.072984	-0.103345
3.適時的	0.071043	-0.024489	0.025822
4.適時的	0.012753	0.155822	-0.085764
5.曖昧な求心	-0.023243	-0.012877	0.100056
5.連続性			
1.単一的	-0.062824	0.037818	-0.036362
2.複合的	0.044904	-0.040336	0.001311
3.不明瞭	0.043429	0.002614	0.078290
7.市庁舎の位置			
1.広場内中心	-0.012116	-0.089525	-0.007081
2.広場内付随	0.035478	-0.002953	0.000581
4.広場外無関係	-0.045861	0.085298	0.005444
8.教会の位置			
1.広場内中心	-0.023783	0.046268	-0.020399
2.広場内付随	0.068601	0.037805	-0.034712
3.広場外無関係	-0.019846	-0.085852	0.004759
4.広場外無関係	-0.038476	-0.002170	0.056277

サンプルコード・都市名リスト			
No.	KODE	TOSHIMEI	
1	POL-90-01	SWIEBODZIN	36 YUG-90-06 SPLIT
2	POL-90-02	RAKONIEWICE	37 YUG-90-07 TROGIR
3	POL-90-03	POZNAN	38 YUG-90-08 SIBENIK
4	POL-90-04	SMIGIEL	39 YUG-90-09 NIN
5	POL-90-05	SRODA SLASKA	40 YUG-90-10 KOPER
6	POL-90-06	WROCLAW	41 HUN-91-01 SOPRON
7	POL-90-07	OPOLE	42 HUN-91-02 KOSZEG
8	POL-90-08	KRAKOW	43 HUN-91-03 SZOMBATHELY
9	POL-90-09	TARNOW	44 HUN-91-04 SZOMBATHELY
10	POL-90-10	NOVY SACEZ	45 HUN-91-05 VESZPREM
11	POL-90-11	STARÝ SACEZ	46 HUN-91-07 SZEKESFEHVAR
12	POL-90-12	KROSCHENKO	47 HUN-91-08 BUDAPEST
13	TCH-90-01	LEVOCIA	48 HUN-91-09 BUDAPEST
14	TCH-90-02	KREMENICA	49 HUN-91-10 EGER
15	TCH-90-03	KROMERIZ	50 HUN-91-11 EGER
16	TCH-90-04	OLMOUC	51 HUN-91-12 MISKOLC
17	TCH-90-05	PRIKAZY	52 HUN-91-14 MISKOLC
18	TCH-90-06	MORAVSKA TREBOVA	53 HUN-91-15 DEBRECEN
19	TCH-90-07	LITVYL	54 HUN-91-16 DEBRECEN
20	TCH-90-08	HRADEC KRALOVE	55 HUN-91-17 SZEGED
21	TCH-90-09	PARDUBICE	56 HUN-91-19 SZEGED
22	TCH-90-10	KOLIN	57 ROM-91-02 ARAD
23	TCH-90-11	PRAHA	58 ROM-91-04 ORADEA
24	TCH-90-12	PRAHA	59 ROM-91-05 CLUJ-NAPOCA
25	TCH-90-14	CESKE BUDEJOVICE	60 ROM-91-06 CLUJ-NAPOCA
26	TCH-90-15	JINDRICHUV-HRADEC	61 ROM-91-07 TIRGUMURES
27	TCH-90-17	JIBRAVA	62 ROM-91-08 SIGHISOARA
28	HUN-90-01	GYOR	63 ROM-91-09 BRASOV
29	HUN-90-02	KECSKEMET	64 ROM-91-10 BUCURESTI
30	HUN-90-03	PECS	65 ROM-91-11 BUCURESTI
31	YUG-90-01	OSIJEK	66 ROM-91-12 BUCURESTI
32	YUG-90-02	DAKOVO	67 BUL-91-03 SOFIA
33	YUG-90-03	SARAJEVO	68 BUL-91-04 SOFIA
34	YUG-90-04	DUBROVNIK	69 BUL-91-05 PLOVDIV
35	YUG-90-05	KORCULA	70 BUL-91-06 PLOVDIV

表2-2 固有値表・カテゴリースコア表・サンプルコード

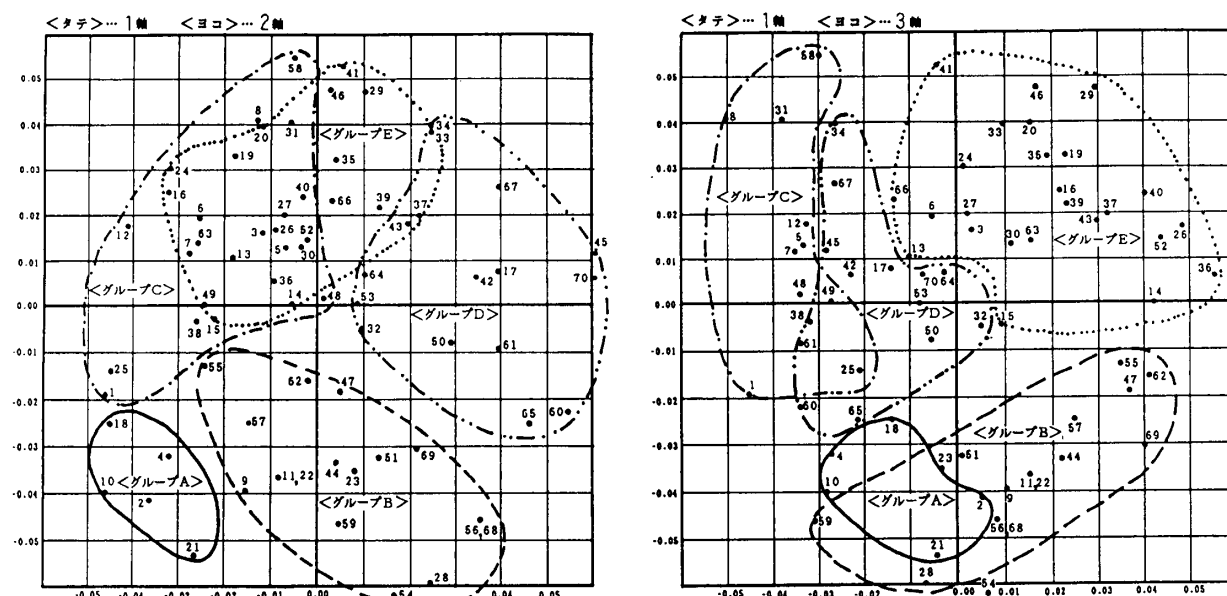


図2-8 サンプルのグルーピング図

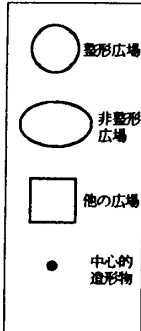
グループ名	主な特徴	参考広場モデル図			
グループ A	整形 単一的複合度 単一軸線 第一の造形物(市庁舎)広場内中心的 第二の造形物広場外関連的	4	10	18	21
グループ B-1	整形 単一的複合度 単一単極的求心性 第一の造形物広場内中心的 第二の造形物広場外無関連的	9	23	58	68
グループ B-2	整形 単一的複合度 曖昧な求心性 第一の造形物広場内中心的 第二の造形物広場外無関連的	11	22	44	47
グループ C	整形・不明瞭 単一多極的求心性 第一の造形物(建物単体)広場内中心的 第二の造形物広場内外関連的	7	8	12	49
グループ D-1	整形・不整形 複合的 軸的求心性 単一軸線 第一の造形物広場内中心的 第二の造形物広場内中心的	32	34	60	61
グループ D-2	整形・不整形 複合的 軸的求心性 単一軸線 第一の造形物広場内中心的 第二の造形物広場内付随的	42	53	65	70
グループ E-1	不整形 連携的 多極化した求心性 複数の軸線 第一の造形物広場内付随的 第二の造形物広場外関連的	3	13	24	27
グループ E-2	整形・不整形 単一的複合度 曖昧な求心性 軸線不明瞭 第一の造形物広場内付随的	14	15	36	52

図2-9
8つのグループング
された広場モデル図

図2-10
広場類型の
パターン

広場形状 shape		整 形 regular		非 整 形 irregular	
		単 一 single	複 数 multiple	単 一 single	複 数 multiple
中心の造形物の配置	中心の造形物がない monument: non	SrFsMn	SrFmMn	SiFsMn	SiFmMn
	単一の中心の造形物がある simple monument	SrFsMsPi	SrFmMsPi	SiFsMsPi	SiFmMsPi
複数の中心の造形物がある numerous monument	中心の造形物 #広場内	SrFsMsPo	SrFmMsPo	SiFsMsPo	SiFmMsPo
	中心の造形物 #広場外	SrFsMnPi	SrFmMnPi	SiFsMnPi	SiFmMnPi
	中心の造形物 #部分の広場外	SrFsMnPi/o	SrFmMnPi/o	SiFsMnPi/o	SiFmMnPi/o
	中心の造形物 #全(広場外)	SrFmMnPo	SrFmMnPo	SiFsMnPo	SiFmMnPo

凡 例



導入された3種類の軸の主要な項目に着目をして、広場タイプのパターン化を行ったものである。

主要な項目を以下のように設定した。1. 広場の平面形態(shape)が a 整形(regular)であるか, b 非整形(irregular) であるか。2. 広場の複合形態(form)が a 単一広場的(single)であるか, b 複合広場的(multi-ple) であるか。3. 中心となる造形物(monument)が a 単一中心的(simple)であるか, b 複数中心的 (nume-rous) であるか。4. 複数の中心となる造形物の関係(relation)が, a 対等(equal)であるか, b 序列の関係(hierarchical) であるか。5. 複数の中心的造形物の位置(position)が, a 同一広場内(same)にあるか, b 非同ー広場内(different)にあるか。

図2-10 広場タイプのパターン参照

以上の5項目をもとに広場タイプパターンの分類図としてまとめたものが図2-10に示される。この図によれば、若干の例外もあるが、全体を20のパターンに分類出来ることが示される。この各々を記号化して表現出来るようにしたものが以下に示される。たとえば、単一の整形広場で単一的の中心造形物のある場合は SrFsMs, 複数の整形広場で複数の中心的造形物が同一の広場内に対等の関係で存在する場合は SrFmMnRePs と表現できる。ここで、軸の解釈から主要な5項目を設定するときには、それぞれが対等の関係で設定されたが、パターン化された実際の関係としては、5項目の内、前3者と後2者は主要な項目、従属的項目と位置づけられる。

(2) トルコの調査結果による類型化の修正

1992年に行われた第3回調査ではトルコの15都市広場の結果を得た。

図2-11 トルコの15都市広場のモデル図参照

2-1 トルコの都市広場の特徴

トルコの都市広場の基本構成要素として、①広場空間自体のゾーンとしての空間要素、セン

ター機能を負担する施設としての②モスク、③ハマーム（公衆浴場）、④バザール（ゾーンとしての商業施設群）、⑤その他の中心施設の5つの要素を捉え、それぞれの施設への導入部（入口）の方向を明示して、15の都市広場を記号化した。（図2-13参照）また、バザールについては、その中心的空間として位置づけられるベデステン（BEDESTEN：高価な商品を扱う堅固な建物の意）の位置（◎の記号で示された位置）を示してある。

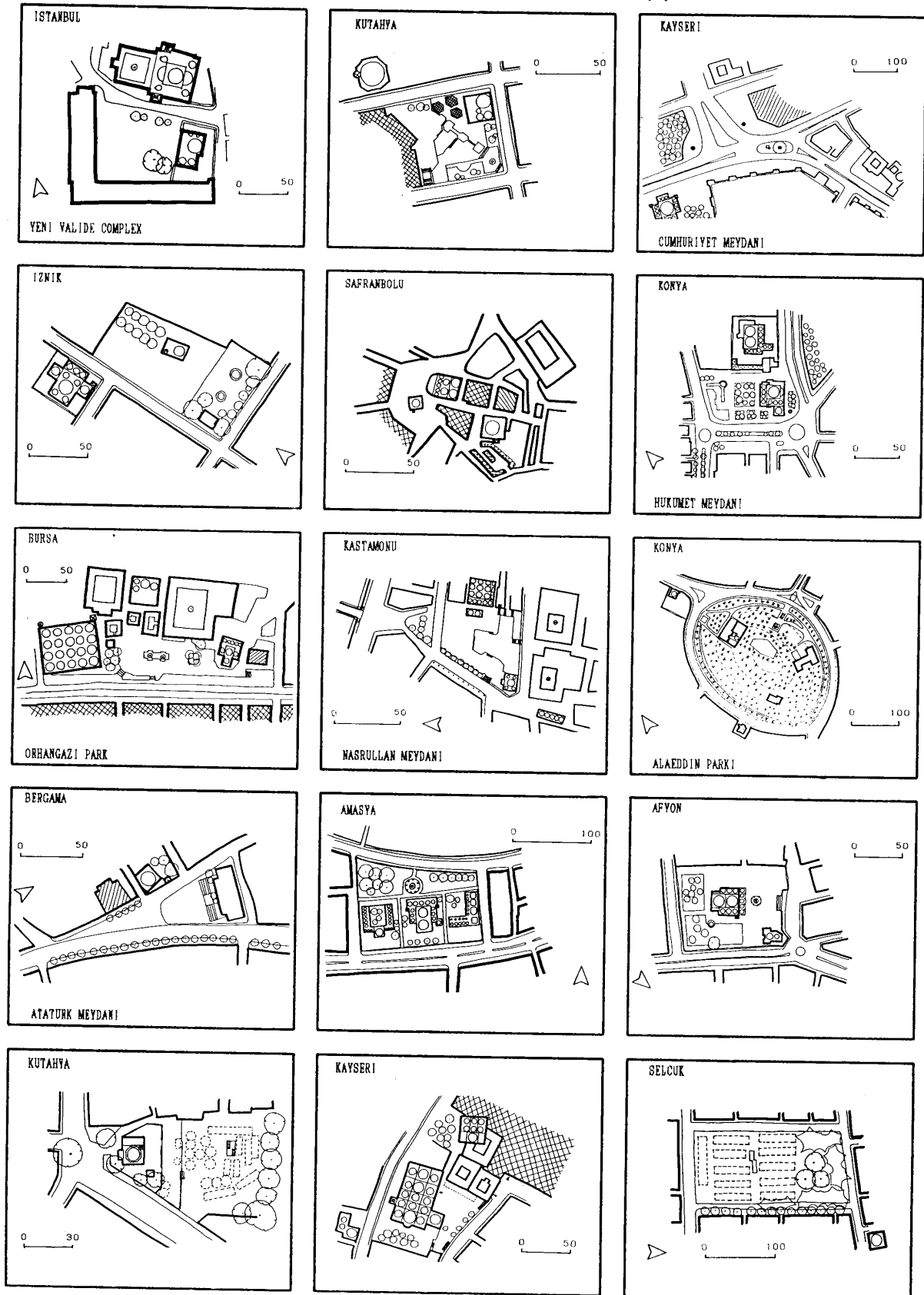
図2-12 広場の配列関係モデル図参照

広場と他の要素との関係を示して類型を明確にするために、Ⅰ商業空間と広場、Ⅱモスクと広場、Ⅲハマームと広場の相互関係として整理したものが、図2-14として示されている。ここで、それぞれの相互関係を示す条件は、施設の入り口、あるいはバザール領域の導入方向が、どのようになっているかが問題とされる。

図2-13 広場の施設要素との関係類型図参照

以上の整理で特記すべき事項がいくつかある。まず、広場とバザールの関係で特徴的なのは、両者が隣接している場合が多いにも関わらず、両者の関係が薄い事例が最も多かった事である。また、広場とモスクの関係では、広場がモスクの正面に作られている事例が2例しか見受けられなかった事であり、さらにハマームと広場の関係では、これも同様で、ハマームが広場に対して開いている事例は無かった事である。トルコにおける都市調査の事例数が15では、結論づける事は難しいが、トルコの都市広場の特徴が、西欧のそれと異なった性状をなしている事が示された。つまり、広場の作られ方が、広場を介して諸施設が配列されている西欧の都市広場と異なり、トルコの広場は都市のセンターゾーンにおける施設群の一つの要素ではあるが、広場を中心に施設群が配列されているとは限らず、むしろ、それぞれのセンターゾーンの

図2-11 トルコの15都市広場のモデル図



都市広場の類型化手法に関する研究

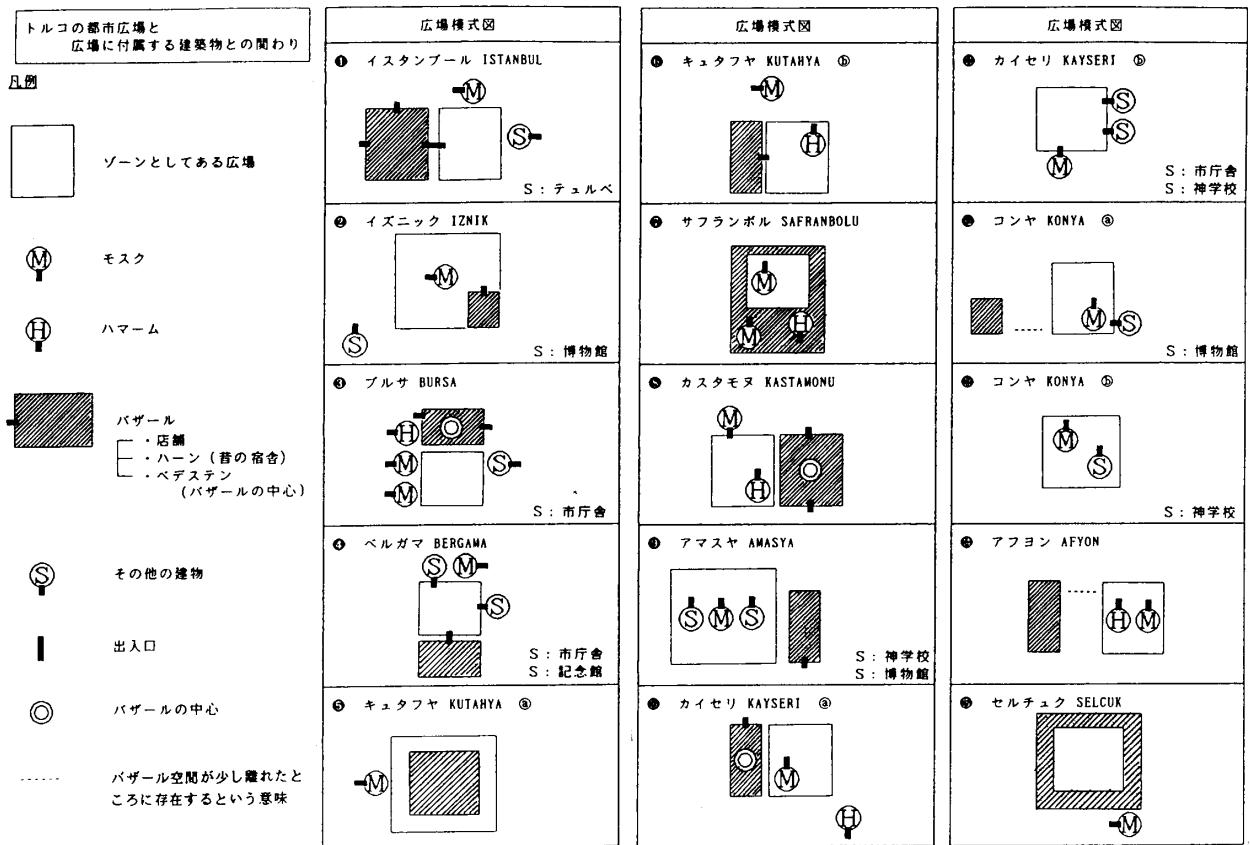


図2-12 広場の配列関係モデル図

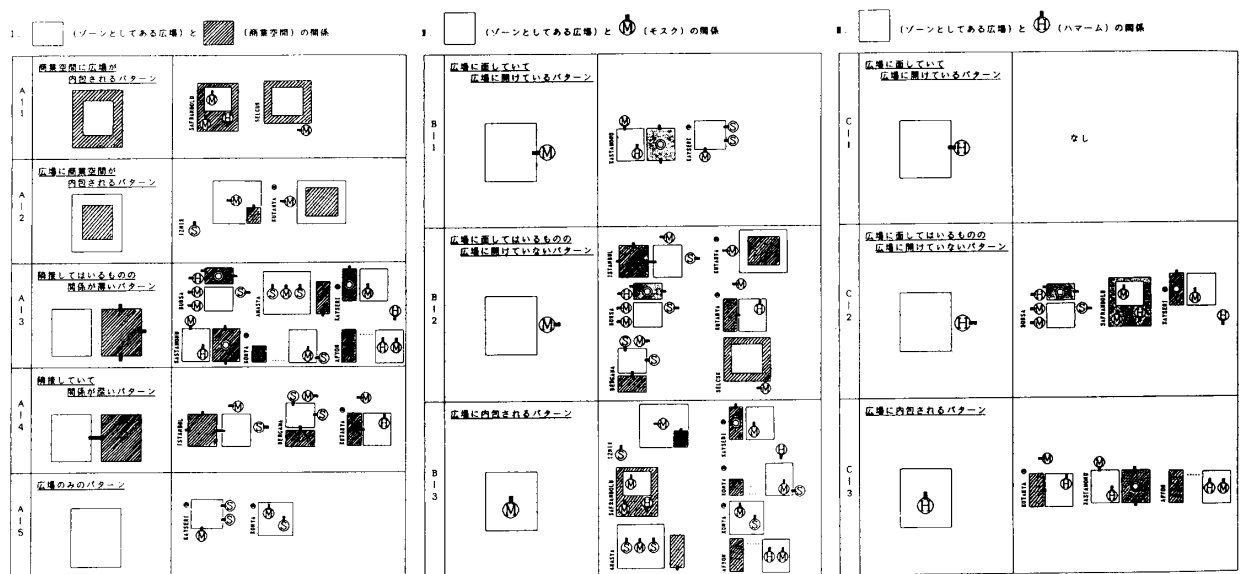


図2-13 広場と施設要素との関係類型図

施設がそれぞれの配列規則をもって位置づけられていると考えるのが妥当なところであろう。

2-2 広場類型パターンの修正

(1) 1-3で示された広場類型のパターン

(旧パターンとする)の修正版を示したものである。これは、東欧70都市広場のデータに数量化Ⅲ類の分析結果によって作成したものであるが、当節の修正版は、旧パターンの構成については踏襲しているが、トルコの都市の特性を加味し、付加条項を加えて修正を加えたものである。

新パターンは、以下の主要項目によって類型表を作成している。1. 広場の平面形態 (shape) がa整形 (regular) か、b非整形 (irregular) であるか。2. 広場の複合形態 (form) がa単一広場的 (simple) であるか、b複合広場的 (multiple) であるか。3. 中心となる造形物 (monument) が、a無い (no) か、b単一中心的 (simple) であるか、c複数中心的 (numerous) であるか。4. 単一の中心的造形物の位置

(position) が、a広場内 (in) にあるか、b広場外 (out) にあるか、5. 複数の中心的造形物の位置 (position) が、aすべて広場内 (in) にあるか、b部分的に広場外 (in・out) にあるか、c全て広場外 (out) にあるか。

以上の5項目の中で付加された項目は、中心的造形物がない場合、単一の中心的造形物が広場外にある場合と、複数の中心的造形物が全て広場外にあるときである。この3項目は、前回の報告でも考えられたものではあるが、事例が無いとして除外されていたものである。また、旧パターンから除外された項目は、複数の造形物の関係が、対等であるか序列ある関係かという項目である。この関係については、パターンの数を多くしないための処置である。記号化の表現は旧パターンと同じであるが、その事例を示すと以下のようなになる。たとえば、単一の整形広場で中心的造形物がない場合は $SrF sMn$ と示し、複数の整形広場で複数の中心的造形物

		整 形		非 整 形	
		単 一	複 数	単 一	複 数
単一の中心的造形物		$SrPsMs$ 	$SrPsMs$ 	$SiPsMs$ 	$SiPsMs$
		マドリッド、マヨール広場 (1676) (図29) マドリード、マヨール広場 (1676) (図29)	シエラ、カンパ広場 (1977) (図30)		グルッポル、カステル広場 (17-1877) (図31)
複数の中心的造形物	同一広場内 対等	$SrPsMnRePs$ 	$SrPsMnRePs$ 	$SiPsMnRePs$ 	$SiPsMnRePs$
		マドリッド、マヨール広場 (1676) (図29)	シエラ、カンパ広場 (1977) (図30)	<グループD-1>	グルッポル、カステル広場 (17-1877) (図31)
	同一広場内 序列	$SrPsMnRhPs$ 	$SrPsMnRhPs$ 	$SiPsMnRhPs$ 	$SiPsMnRhPs$
		マドリッド、マヨール広場 (1676) (図29)	シエラ、カンパ広場 (1977) (図30)	<グループD-2>	グルッポル、カステル広場 (17-1877) (図31)
	異なる広場内 対等	$SrPsMnRePs$ 	$SrPsMnRePs$ 	$SiPsMnRePs$ 	$SiPsMnRePs$
		マドリッド、マヨール広場 (1676) (図29)	シエラ、カンパ広場 (1977) (図30)	<グループE-1> ¹⁾	グルッポル、カステル広場 (17-1877) (図31)
	異なる広場内 序列	$SrPsMnRhPs$ 	$SrPsMnRhPs$ 	$SiPsMnRhPs$ 	$SiPsMnRhPs$
		マドリッド、マヨール広場 (1676) (図29)	シエラ、カンパ広場 (1977) (図30)	<グループE-2> ²⁾	グルッポル、カステル広場 (17-1877) (図31)
	異なる広場外 対等	$SrPsMnRePs$ 	$SrPsMnRePs$ 	$SiPsMnRePs$ 	$SiPsMnRePs$
		マドリッド、マヨール広場 (1676) (図29)	シエラ、カンパ広場 (1977) (図30)	<グループF-1> ³⁾	グルッポル、カステル広場 (17-1877) (図31)
	異なる広場外 序列	$SrPsMnRhPs$ 	$SrPsMnRhPs$ 	$SiPsMnRhPs$ 	$SiPsMnRhPs$
		マドリッド、マヨール広場 (1676) (図29)	シエラ、カンパ広場 (1977) (図30)	<グループF-2> ³⁾	グルッポル、カステル広場 (17-1877) (図31)

図2-14 新・広場類型パターン

があり、その全てが広場外の存在する場合は、SrFmMnPoと示される。旧パターンと同様、1～3の項目は主要な項目であり、4、5の項目は従属的な項目として位置づけられる。

図2-14 新・広場類型パターン参照

第3章 類型化の手法

5年間にわたり6回の都市広場調査を行ったといっても高々17カ国309事例にすぎない。おそらく、あと5年行っても、世界全体の中ではほんの一部の事例を採集できるにすぎないであろう。しかし、類型化は、各段階で検討してゆかなければならない。新しい事例が見つければそれだけまた類型の枠は広がってゆくのであろう。では、どの時点で類型化は終了するのであろうか。このことを考えると、事例の幅を拡げれば拡げるだけ、類型化への道のりは遠くなるのであろうか。しかし、この研究は、無限の時間を持つてはいず、ある段階での結論を導かなければならない。その意味で考えるなら、事例はできる限り広く、多様な相から抽出してゆきその上で、予測を含んでの類型化の作業を押し進めてゆくことが肝要であらう。

その意味で考えるなら、事例抽出の作業は、事例の個別性に惑わされるのではなく、事例群を司る主要な概念の抽出を目指すべきである。その点で捉えるなら、2章で示した広場類型パターンの導入の過程は類型化の一つの手法を提案するものとなっていると考えられるのではなかろうか。以下にその一般的手法の整理を示してゆく。

(1) 資料のデータベース化とカテゴリーの抽出

類型化を目指すなら、できる限り多くの事例の調査を行う必要がある。都市広場を対象とするなら、国、地域、民族、風土、宗教、伝統等の要素のそれぞれについて幅広い多様な事例の調査を行う必要がある。ただし、その多様な

数多くの事例についてデータベースに蓄積し整理するときのカテゴリーの抽出が重要となる。当研究の場合、カテゴリーの抽出は、複数の調査担当者の経験を通して、対象の持つ有用なカテゴリーの抽出を行ってゆくことを当面の課題とした。当初13項目のカテゴリーと49の選択肢によって判断をしていったが、分析の過程で、重要でないもの、影響力のないものなどを除外する作業をしてゆくことによって最終的には、6つのカテゴリーと21項目の選択肢に集約していった。その集約の過程は、分析過程を通してできるために、当初のカテゴリー数と、選択肢の数はできるだけ多く選定しておくことが必要であらう。

対象に対して、形態学的分析手法によるアプローチを行っていることはすでに述べたが、カテゴリーの設定についても形態的な要素を中心として行っていく。形態的に捉えたときに都市広場をどう判断できるかがカテゴリー設定につながってゆく道筋であらう。

(2) 数量化手法によるグルーピングと主要軸構成の把握

数量化Ⅲ類による多変量解析は相互に独立した複数のカテゴリーで対象を記述する場合のもっともらしさの高い順にスコアを割り当てた解答を導き出す手法であるが、それを応用して、都市広場としての対象群を規定するための形態学的カテゴリーグループによって幾つかの軸を設定してゆく事が第一段階となる。その軸は、もっともらしさの高い順に得られるが、そのもっともらしさを高めるために、試行錯誤でカテゴリー群の調整を行い不要なものを除外し、重要なものを選び出してゆく作業を続ける。この過程を通して、複数のカテゴリーの複合で構成される軸が、グルーピングを語るための原理を作り上げる。解釈をするためには、高々3軸までを取り上げ、その上で、対象としての都市広

場事例を位置づけ、グルーピングの作業に移ってゆく。

元々多変量の複合体からできている3軸構成であるため、明快な解釈ができるわけではないが、主要なカテゴリーが浮かび上がってきたらグルーピングは完成されて来ると見ることができる。

3軸が構成されたときには、サンプルは、3次元の仮想空間に散布された点として位置づけられる。そこで、それらのグルーピングを可能にする手法として、仮想空間内での相互間距離が計られることによって、全体をクラスターに区分することが可能である。これが、クラスター分析である。

以上の手法によって、都市広場のデータ群は幾つかの類型に区分し、軸構成の解釈によって、分けられた類型の性格を規定することができるのである。

(3) 数量化で得られた主要な概念を基に類型パターン図を作成する

上記に示される手法は、あくまでも対象に左右される。東欧の広場を対象とすれば東欧の特性の中での類型となってゆく。その意味で、トルコのデータが加わったときに大きく修正を余儀なくされたのである。対象を広く多様な側面で実態把握をしてゆかなければならないのは、このような意味からである。そこで、複合化された多変量の複雑な構造を把握することによって、その中から主要な概念を取り出すことができるとしたら、対象群の性格によって左右されるのではない構造が抽出されてくるのではなかろうか。今回の広場類型パターンの誘導はここに意味があるのである。対象群の立体的位置によって解釈する類型の場合、その境界条件が難しくなる。というのは、もともと複合された軸構成であるために、境界設定は意味がさらに解釈不能となってしまふ。それに引き替え、主要

概念によって構成される類型パターンは、相互の類型間には明確に規定が可能である。逆に言うと、サンプルの位置づけが境界的条件の時どうするかという事になってしまうが、類型自体が明確となっていれば、解釈は可能ではないかと考える。

以上両者には、それぞれに短所長所があるが、明快さという点で類型パターンの構成方法は有効であろう。また、この類型の場合、概念構成で機械的に類型が導入されるために該当する広場が無い場合が往々にしてしばしば存在する。逆にその類型を探してゆくことも、類型を定めてゆく一方法となるかもしれない。

以上類型パターンの導入の手法は、今回の報告の中心的主題となるものであり、今後この手法の評価をしてゆかなければならない。

終章 展望

(1) イタリア調査の結果を合流させた結果の考察

1994年に行われた都市広場調査は、広場の本場であり、広場の宝庫であるイタリアで行われた。このことは、広場類型パターンの評価をするのには最適の条件となるのではないか。イタリア北部地域で調査実施した広場は、122事例がある。5回の調査の内1回で数からすれば3分の1を占めてしまっている。イタリア都市の影響は大きく、全体を一体的に整理したときにどのように評価されるかが今後の課題となるであろう。

また、1995年にはいると10年の調査の後半となってゆく。その意味でも、前半のまとめとして、一つの評価を得られる結論を導いてゆく必要があるだろう。

(2) 今後の目標

まず海外都市広場調査のこれからの目標であるが、前述のごとく、国、都市、地域、民族、宗教、風土等あらゆる多面性の中で、調査地域

を設定し、調査の実施をしてゆかなければならない。今後5回を当面設定しなければならないが、1回はイスラム諸国、1回はスペイン・ポルトガル、1回はフランス・ドイツ、1回はイギリス・スコットランド・アイルランドを検討しなければならない。まだまだ調査していないところはいくらでもある。

調査をできる限り行ってゆくことと同時に類型化作業を並行して行い、現在の軌道修正を行ってゆく必要が出てくるのか、あるいは、全く新しい作業を見いだしてゆくのか、未だわからないが、新しい展開と発展を期待したいと考える。

参考文献

1. 東欧都市広場についての考察－1990年東欧都市広場調査報告－，芦川智・鶴田佳子，昭和女子大学学苑生活美学紀要，平成3年7月，621号
2. 東欧都市広場形態の考察－1991年第2回海外都市広場調査報告－，芦川智・鶴田佳子・金子友美，昭和女子大学学苑生活美学紀要，平成4年7月，633号
3. トルコ・ギリシャ都市広場形態についての考察－1992年第3回海外都市広場調査報告－，芦川智・鶴田佳子，昭和女子大学学苑生活美学紀要，平成5年7月，644号
4. 北欧・フランドル等都市広場形態についての考察－1993年第4回海外都市広場調査報告－，芦川智・金子友美，昭和女子大学学苑生活美学紀要，平成6年7月，655号
5. 都市広場の造形に関する研究－広場の形態的把握方法の提案について－，芦川智・鶴田佳子，昭和女子大学生生活機構研究科紀要 1991年 Vol.1
6. 都市のシンボル性に関する形態学的研究－都市のランドマークと都市広場の概念構成についてのケーススタディー，芦川智・林田ゆみ子・鶴田佳子，昭和女子大学生生活機構研究科紀要，1992年，Vol.2
7. 東欧都市広場の類型化－活動状況図の表現手法に関する基礎的考察－（その6），芦川智・金子友美・鶴田佳子，日本建築学会大会論文報告集1992年8月
8. 東欧都市広場の類型化（その2）－活動状況図の表現手法に関する基礎的考察（その7），芦川智・鶴田佳子・金子友美，日本建築学会大会論文報告集1993年9月
9. 東欧都市広場の類型化（その3）－活動状況図の表現手法に関する基礎的考察（その8），芦川智・金子友美・鶴田佳子 日本建築学会大会論文報告集 1993年9月
10. トルコ都市広場の類型化－活動状況図の表現手法に関する基礎的考察（その9）－，芦川智・鶴田佳子・小柴美海，日本建築学会大会論文報告集1994年9月
11. 広場の類型化についての試案－活動状況図の表現手法に関する基礎的考察（その10）－，芦川智・金子友美 日本建築学会大会論文報告集 1994年9月

以上